

4) 視聴覚教材作成実績 (車両一機載)

1988年7月現在

コース名	視聴覚教材名		1986		1987		1988		1989		進捗率	概要	備考
	当初(87.3.)	変更(88.7.)	1/3	2/9	1/3	2/9	1/3	2/9	1/3	2/9			
3-1. 車両機載 初級	VTR ロカ線電化取巻										100%	ロカ線の概要、電化の前後電化工事の概要	JARTSが作ったもの。
	VTR パンタグラフ スリ板交換と 押上力調整										100%	Livallio / 基地での作業。	
	VTR ブレーキ弁 ハンドル位置と 圧力計の指示										100%	ブレーキ弁ハンドルの動きと位置によって、2個の圧力計の指示がどう異なるか。	

IV. 変配電

1) 教科書の整備状況

変配電の教科書は初級コース、中級その1～その4コースの5つのコース用を計画している。そのうち初級コース用は昨年3月に、また中級コース用はその1とその2については今年の3月にそれぞれ完成している。

これから作成する教科書は中級その3、その4で、現在中級その3を作成している。中級その3は変電所の配電盤、保護継電器等の制御回路に関する機器の保守で、現在カウンターパートへの技術指導が一応終わり、ギア・パノラミカおよび教科書を作成しているところである。今年の12月に完成させ、89年3月にコースを開設する予定である。

中級その4教科書については今年12月～89年6月に作成する予定である。

教師用教材については、教科書作成の際に参考資料として作成し翻訳したものを整備し製本化したいと考えている。

2) 視聴覚教材の整備状況

視聴覚教材については

- (1) 写真、スライド
- (2) O.H.P (オーバーヘッドプロジェクタ)
- (3) ビデオ

の3種類を作成することになっている。現在のところ変配電機器の構造や結線図についてのO.H.P教材と配電盤、保護継電器の写真が若干できている程度である。

視聴覚教材はコース実施における参考教材、補足教材であるため、主体である教科書作成の合い間で作成することになることから作業はなかなか進まない。

視聴覚教材の教材名をいくつか掲げているが、これもコースを実際に開講した結果で変更したいと考えているので、あくまで参考名である。コースの講師であるカウンターパートの意見を大いに尊重しながら作業を進めたいと考えている。

3) 教科書等作成実績および予定 (教科書見直しを含む: 変配電)
教科書

1988.7 現在

コース名	教科書名	1986	1987	1988	1989	進捗率 %	概要	備考
初級コース	前回(87.11)変更(88.7) 1. 変配電 電力概論	1月	2月	3月	4月	100% (129P)	・電化、変配電設備概要 ・電気運動の基礎 ・安全作業	(注1) —— 欠損 ----- 前回訂正 —— 今回訂正
中級コース1	*1 2. 変配電 設備概論(1)	3月	4月	5月	6月	100% (207P)	・変配電機器の構造 機検、点検、試験(1) 断絡器、変圧器、アスタ コンプレッサ、	*1 変更理由 内容量が多いため2 コースに分けたためである。
中級コース2	3. 変配電 設備概論(2)	3月	4月	5月	6月	100% (129P)	—— (1) —— (2) と都合、充電器 バッテリー-	
中級コース3	4. 変配電 設備概論(3)	3月	4月	5月	6月	40%	・配電盤および電気運動 ・保護装置の構造 機検、耐性、点検、試験 ・各種試験器具の構造 及び使い方(1)	
中級コース4	5. 変配電 設備概論(4)	3月	4月	5月	6月	0%	・電力制御回路の構成 点検、試験、故障等 ・各種試験器具の構造 及び使い方(2) ・電力指令事務	

コース名	教師用教材名	1986	1987	1988	1989	達成率 %	概要	備考
各コース 共通	前日(87.11)変更(88.7)	12月	12月	12月	12月	60%	変圧器実習設備の取 扱いは、マニュアル	
"	1. 変圧器訓練 機器 <small>4=712</small>	12月	12月	12月	12月	0%	変圧器の設備について の導入を、変圧器の塔形 列に解説した。また	
"	3. 変圧器	12月	12月	12月	12月	80%	変圧器の理論及び 構造について解説した。も の	
"	4. シーティング制御	12月	12月	12月	12月	80%	シーティング制御について の導入を解説した。も の	
"	5. 保護継電器	12月	12月	12月	12月	50%	保護継電器の原理に ついて種類別に解説 した。も	
"	6. 変圧器	6月	6月	6月	6月	0%	変圧器の種類別に 原理と構造について 解説した。も	
"	7. 変圧器	6月	6月	6月	6月	0%	変圧器の放電器の 特性や絶縁協調につ いて解説した。も	
"	8. 変圧器	6月	6月	6月	6月	0%	変圧器の概念、精 造機、構造について解説 した。も	

4) 視聴覚教材作成実績および予定 (変配電)

1988.7 現在

コース名	視聴覚教材名	1986	1987	1988	1989	進捗率 %	概要	備考
初級コース	1. 変配電設備の構成 (O.H.P.)	10/10	10/10	10/10	10/10	0%	変配電設備の種類構成	
中級コース	2. ATの変方式の概念 (O.H.P.)	10/10	10/10	10/10	10/10	0%	ATの変方式の回路構成, 電流の流れ, 中心電方式の比較	
中級コース	3. 変配電機器の構成 (O.H.P.)	10/10	10/10	10/10	10/10	20%	各種変配電機器の構成, 制御部回路	
中級コース	4. 断路器の構成 (Video)	10/10	10/10	10/10	10/10	0%	断路器の原理及び総合的な検査方法	
中級コース	5. 断路器の点検 (Video)	10/10	10/10	10/10	10/10	0%	断路器の原理及び総合的な検査方法	
中級コース	6. 保護継電器の構成 (O.H.P.)	10/10	10/10	10/10	10/10	0%	保護継電器の構成及び特性	
中級コース	7. 同期装置 (Video)	10/10	10/10	10/10	10/10	0%	同期装置の構成及び同期化の原理, 同期化の試験, 同期化の手順	
各コース共通	8. 変配電設備の巡回点検 (Video)	10/10	10/10	10/10	10/10	0%	変配電設備の巡回点検の方法及び巡回点検の手順	

V. 電車線

1) 教科書の整備状況

教科書作成実績および予定を 3) に示す。

事故復旧コース教科書は1988. 3 に印刷発注し完了している。

中級コース教科書は1988年度にまたがって計画しているが、これを2分冊に分け、第1分冊について印刷発注した。第2分冊について現在作成中で、88年9月には印刷を完了する計画でいる。

新設した保守用車コースについてはかなりの経験をもつカウンターパートを中心に、彼等で主体的に作成することとしており、専門家側からは必要と思われるアドバイスをまとめて、伝えておくよう考えている。教科書作成時期は89年のコース開始前（5月頃）を考えている。

特設コース教科書はコースを開講するかどうか未定であるが、日本語下案を89年2月までに準備しておく予定で、現在、詳細内容を検討中である。

2) 視聴覚教材の整備状況

視聴覚教材作成実績および予定を 4) に示す。

初級および事故復旧コース用の「電車線路における安全作業」はビデオを編集して作成した。

「事故復旧コース指導用ビデオ」は先に収録した実習風景を編集する予定であるが、撮影が不慣れでよく録画できていないため、再度収録することを考えている。

中級コース用教材はOHPフィルムのほか、事件事例のスライドを用意する考えで、少しずつ準備している。

保守用車コース、特設コースについては今後検討していく考えである。

3) 教科書等作成実績および予定 (教科書見直しを含む: 電車線)

凡例

1987.11 計画
1988.7 実績
1988.7 計画

1988.7 現在

科目名	1986年	1987	1988	1989	1990進捗率 (%)	概要	備考
当 初	4.5.77~10.21	1.34.78~9.10.78	1.34.79~10.21.79	1.34.80~9.10.80	100% 改訂版	新人、交際整理担当者への 設備の概説および交際 指導書。	講義の進め方に一環して 教科書を編集し直し、2 冊に分ける。
電車線概論			見直し		5%		
安全作業マニュアル			見直し				
事故復旧コース 教科書			見直し		100% 改訂版	事故に対する準備体制、予 防的復旧体制、保護の 防止試験、作業時の身体負 荷、作業マニュアル(仮持 続、仮ラフット等)	マニュアルの作成に予想以 上に所定を要した。
電車線踏切部の 保全				見直し	70%	設備保全の指導書	
保守用車作業 マニュアル					0%	保守用車作業用設置の 取扱い及び保全作業の 指導書。	保守用車作業が主体的に作 成する。
特設コース 教科書					0%	事故防止管理等七校対中	中級コース実績によりコース 開設を念じて検討する。
(注) 上記教材はいつでも教科書として使用する。							

4) 視聴覚教材作成実績および予定 (電車線) (凡例) ----- 1987.11計画
 ----- 1988.7実績
 ----- 1988.7計画 1988.7現在

視聴覚教材名	1986年		1987		1988		1989		1990達成率 (%)	概要	備考
	当	初	変	更	1	2	3	4			
電車線設備									100	設備説明用スライド	初級コース用
電車線路における安全作業									100	安全な基本作業の方法をビデオで指導	初級コース、事故復旧コース用
交差点構内改良工事									100	この線(通称新線)の構造線路作業と交差点、ビデオ	初級コース用
同上									100	同上、スライド	初級コース用
初級コース指導用 OHPフィルム									100	教材図表と複写	初級コース用
事故復旧コース指導用ビデオ									30	実習状況をビデオに収録	撮影は不備な点を見つけて再収録を予定。その後再編集を予定。事故復旧コース用
中級コース用視聴覚教材									10	設備の破壊、復旧状況のスライドの他、OHPフィルムを作成	中級コース用
保守用車コース用視聴覚教材									0		検計中
特設コース用視聴覚教材									0		検計中

VI. 信号

1) 教科書の整備状況

信号の教科書は、初級コース用(信号教科書Ⅲ)、中級その1コース用(信号教科書Ⅰ)、中級その2コース用(信号教科書Ⅱ)、(中級コースは、信号教科書Ⅰ、Ⅱを使用)および継電連動コース用とも今年の2月までに完成し各コースで使用しているが、一部コネット方式になっていないため、見直しを含め現在訂正作業中である。

これから作成する教科書は、継電連動その2コース用、特設コースa用および特設コースb用を主体とし、89年3月までに完成させ、89年6月に特設コースaから逐次開講していく予定である。また、補助教材として「信号設備保全要領」、「連動検査要領」等を作成し、使用することを予定している。その他教科書作成の際に参考資料として作成し翻訳したものを整備し製本化して、補足資料としたいと考えている。

2) 視聴覚教材の整備状況

視聴覚教材については、次の通り。

- (1) 写真、スライド
- (2) O.H.P
- (3) ビデオ

の3種類が作成されているが、信号の実習室が「テンペレイ」にあり、ビデオおよびスライド等の機材が「CENACAF」にあるため、有効に活用されていない。よって、今後作成する視聴覚教材については、現行の教材の見直しを含め、活用方法を検討し、作成を進めたい。

ただし、視聴覚教材は、コース実施における参考教材、補足教材であるので、教科書作成の合い間で作成することになる。また、視聴覚教材の教材名については、実際にコース開講後および結果で変更する部分が発生すると考えられるので、参考名である。

なお、作成にあたっては、コースの講師であるカウンターパートを主体とし、彼らのコース経験・意見を大いに尊重しながら作業を進めたい。

3) 教科書等作成実績および予定 (教科書見直しを含む：信号)

コース名	教科書名		1986		1987		1988		1989		1990	進捗率 %	概要	備考
	当初 (87.3)	変更 (87.11)	1~3 4~6 7~9 10~12	1~3 4~6 7~9 10~12	1~3 4~6 7~9 10~12	1~3 4~6 7~9 10~12	1~3 4~6 7~9 10~12	1~3 4~6 7~9 10~12						
6-1 初級 コース	教師用 教科書	① 信号教科 書Ⅲ 変更なし										100 (190)	鉄道信号、シミュレータ、 用語、運転技術、内部 処理等	班1 ---は、1987.3.31計画 ---は、1987.11.01の ---は、1989.9.01の ---は、実績を示す。 ()の数字は、ページ数。 注1. ○印の番号は、教 科書を示す。その他 は、補助教頭を示 す。
6-2 中級初 コース	信号教科 書	② 信号教科 書Ⅰおよび Ⅱの一部 変更なし 教師の指導 要綱										100 (265)	信号装置について、 電の電気回路を の機能、保安、安全 作業、事故原因等を 装置ごとにまとめ る。	
6-3 中級2 コース		③ 信号教科 書Ⅱ 変更なし 教師の指導 要綱										100 (252)		
6-4 初級 2 コース	④ 信号教科 書Ⅳ 変更なし	④ 信号教科 書Ⅳ 変更なし										100 (114)	電気信号回路につ いて、 の回路を解説し、 の回路を 復旧させる。	
6-5 初級 2 コース	⑤ 信号教科 書Ⅴ 変更なし	⑤ 信号教科 書Ⅴ 変更なし 教師の指導 要綱										0	新設、改定等にか き、 の作業を する。	
		⑥ 信号教科 書Ⅵ 変更なし										0	信号装置の改良に 伴う の作業を する。	

1988.9.28

4-2

コース名	教科書名		1986		1987		1988		1989		1990		備考	
	変更 (87.3)	変更 (88.9.班)	1~4 5	7~10 12	1~4 5	7~10 12	1~4 5	7~10 12	1~4 5	7~10 12	1~4 5	7~10 12		進捗 %
6-6 特設コース a	④ 保全対応 事故と統 計	変更なし											0	注3、 当初計画④8は、 88.9 変更計画にお いて、④⑦の 設置の可否に合致す ることとした。
6-7 特設コース b	7 信託準備 系統制 について (11 項)	変更なし											0	○電化区間の事故を 集積してその対応 の在り方を例とし、 之を勉強させるもの。 ○運転保安設備は運 転、停車、交差から 軌道との関連から をとり、事故防止 とを理路し事故発生 と作業の効率化を 図る。 ○確意の特長を深く 理解させるもの。
6-7 特設コース c	8 教師用 資料 系統	8 機器の 特性											—	
7 共通	9 測定器類 について=7L	変更なし											60	研修センターの測定器 の取扱いについて
	10 実験機器 取扱い について=7L	変更なし											0	現在分岐器の取扱いに よって研修センターの 実験器具の取扱い を完成させた。 ○数々の装置の取扱い に 研修センターの取扱い を研修している。

1988.9.23

4-3

工-又名	教科番号		1986		1987		1988		1989		1990		備考	
	当初 (87.3)	変更 (87.11)	1~3	4~9	10~15	16~21	22~27	28~33	34~39	40~45	46~51	52~57		退排率 %
7 共通	11 信号設備 系統制に つなぐ (平成U11)	→ 12 信号保安 要領 (変更)												「系統制」より保安 要領への移行がより 効果的であると見 込まれたため、作 業に多量に補助教材を要 求した。
8 (通信、 7-5) 列車位置 指示装置 工-又		③ 列車位置 指示装置の 保安												同装置はF/Aでは通 信分野である。しかし、 日本においては、信号装 置であるため、GPO(通 信)の標準は信号の 専門家に任ずる。

4) 視聴覚教材作成実績および予定 (信号)

3-1

コース名	視聴覚教材名		1986		1987		1988		1989		1990		概 要	備 考
	当初 (87.3)	変更 (87.11)	1~4 7~10 11~12	1~4 7~10 11~12	1~4 7~10 11~12	1~4 7~10 11~12	1~4 7~10 11~12	1~4 7~10 11~12	1~4 7~10 11~12	1~4 7~10 11~12	1~4 7~10 11~12	1~4 7~10 11~12		
初級 コース	• ビデオ 1. 倍音送信												100	1. 機械信号機と自動信号及び各種標識 注1. ---- 1. 1987.3の計画 ---- 12. 1987.10 ---- 13. 1988.9 ---- 14. 実施中
中級 コース	• ビデオ 1. 車検機 2. 車検機 3. 車検機 4. 車検機												100 100 100	1. 車検機の調査回線 2. 車検機の構造と検定 3. 車検機の構造と検定 4. 検査記録の改修装置
	• O.H.P 1. 車検機 2. 車検機												80 80	1. 構成、検出回路 2. 構成、検出回路
	• スライド 1. 車検機 2. 車検機												40 0	1. 車検機の構成 2. 構造、検出回路

コース名	視聴覚教材名		1986			1987			1988			1989			1990		概要	備考
	当初 (87.3)	変更 (87.11)	変更 (88.9)	現用	10-1 3	4-7 3	10-1 3	4-7 3	10-1 3	4-7 3	10-1 3	4-7 3	10-1 3	4-7 3	10-1 3	進捗率 %		
中級CNA コース	• ビジネス 5. AFS装置															0	5. 具体調整以上の関係 6. 制御盤の保守作業の 手順の理解	
	• 制御盤 装置															0		
中級CNA コース	• スライド 3. 階層保安装置															0	3. 階層保安装置の 理解	
																0		
中級CNA コース	• O.M.P 3. 使用法															0	3. 階層回路の 動作順序	
	• スライド 4. O.M.P 装置																4. 階層回路の 動作順序	

1988.9.26

3-3

工-ス名	視聴覚教材名		1986		1987		1988		1989		1990		進捗率 %	概要	備考
	当初 (87.3)	変更 (87.11)	1~ 3	4~ 6	7~ 9	10~ 12	1~ 3	4~ 6	7~ 9	10~ 12	1~ 3	4~ 6			
新設工区		<ul style="list-style-type: none"> 0.H.P 4.事故統計 5.教道回 路の管注 											0	4. 工区総事故集計 5. 回踏回数集計	
列車位置 表示装置		<ul style="list-style-type: none"> 0.H.P 1.システム 構成 											0	1. 列車位置表示装置の 構成とP/O-分十	
		<ul style="list-style-type: none"> スライド 1. 列車位置表示装置 の構成 											0	1. 列車位置表示装置の 構成と設備状況	
		<ul style="list-style-type: none"> ビデオ 1. 運転指令の取扱 の概要 											0	1. 運転指令の取扱 の概要	

VII. 通信

1) 教科書の整備状況

3)に示すとおりである。

(1) 電子交換機は、当初300ページの予定であったが、CONET方式により、ギア・パネルミカに従ったところ、日本側としては教師用教材あるいは補助教材と考えていたレベルまで教科書として組み込んだため、理論編で350頁、実習編で530頁と900頁近い膨大なものとなった。

(2) 初級Iは、現在教科書作成の準備段階である。

(3) 通信ケーブルについては、特にケーブル接続に関して、短期専門家の指導を得て作成する予定である。

2) 視聴覚教材の整備状況

4)に示すとおりである。

(1) 視聴覚教材としては、各コースともO.H.P.が中心となる。

(2) ビデオは、作業の伴うものや、実習室にない設備等を収録することで考えている。

(3) スライドは、実物を代用して見せるためである。

(4) その他に、ケーブル接続点の見本や系統図等を実習室内に掲示することを予定している。

3) 教科書等作成実績および予定 (教科書見直しを含む: 通信)

1988年7月現在

コース名	教科書名		1987 1.4 7.10 ~ 6.9.22	1988 1.4 7.10 ~ 3.8.9.22	1989 1.4 7.10 ~ 3.9.22	1990 1.4 7.10 ~ 3.9.22	進 捗 率 %	概 要
	当初(62.11)	変更(63.7)						
7-1 電子交換機	電子交換機 (C.T.)	・C.T.(理論編) ・C.T.(実習編)					100 100	電子交換機のハード、ソフト、異常時の対応等
7-2 初級 I	初級 I						20	電気の基礎、電話の原理等
7-3 通信ケーブル	ケーブル接続	・通信ケーブル ・ケーブル接続					0	通信ケーブルの特性、接続技術の実習等
7-4 ケーブル搬送 電話装置	ケーブル搬送 電話装置						0	本装置の技術習得と故障対応
7-5 列車位置 表示装置	列車位置 表示装置						0	同上
7-6 初級 II	初級 II						0	各種電話機の技術習得等
7-7 中級	中級						0	各種電話機搬送の技術習得等
7-8 列車位置 表示装置	列車位置 表示装置						0	本装置の技術習得と故障対応

4) 視聴覚教材作成実績および予定 (通信)

1988年7月現在

コース名	教材名	進捗率												概要
		1987 1/3 7/8 10/12	1987 1/4 7/9 10/12	1988 1/4 7/9 10/12	1988 1/4 7/10 10/12	1989 1/4 7/10 10/12	1990 1/4 7/10 10/12							
7-1 電子交換機	当初(63.7) 変更() O.H.P. スライド												100 0	交換機のブロックダイヤ等 ・ロカ線の交換機等
7-2 初級 I	O.H.P. ビデオ スライド												0 0 0	通信機のシステム構成等 ・ロカ線の通信設備 ・各機器の外観
7-3 通信ケーブル	ビデオ O.H.P. スライド												0 0 0	ケーブル接続状況 ・カス! 送信機の構成等 (時期未定) ・接続作業の専攻等
7-4 ケーブル搬送	O.H.P.												0	・ケーブル等
7-5 列車位置装置	ビデオ O.H.P. スライド												0 0 0	運転指令の扱い状況等 ・システム構成等 ・機械的構造等
7-6 初級 II	O.H.P. スライド												0 0	・各電路機の構造等 ・内部構成等
7-7 中級	O.H.P. スライド												0 0	・各システムの構成、ブロック図等 ・装置の内部構成等
7-8 列車情報表示	ビデオ O.H.P.												0 0	・P.C. 装置の表示状況等 ・ブロック図等
														その他各設備のブロック図等を作成 して実習室へ掲示予定。

2-3 機材の維持管理状況

各種計測器、電車線工具、ワード・プロセッサ等の実習用の教材は、昨年の7～9月から実習室に据え付けを行い、コンクリートの床ではあるが明るく広い各部屋にきちんと配列されてあった。

今後、列車情報表示装置やマイクロバス等については、契約手続き完了後購送される予定である。

機材の利用・管理状況表 (昭和60年度供与)

昭和63年3月31日現在

番号	機材名 (メーカー名・形式等)	価額 (万円)	数 量		利用 (保管) 場所	利用状況	管理状況	備考 (特記事項)
			供与数	処分数				
1	主制御器 (東芝・MM54A)	1,231.6	1	0	1	運転・車両実習室	A	
2	所流器 (東芝・URB-PII-90-4J)	342.6	1	0	1	"	A	
3	電動発電機 (東芝・CLG-610)	530	1	0	1	"	A	
4	MA制御器 (東芝・SRI19A)	353	1	0	1	"	A	
5	ブレーキ (東芝・26-B-1)	257	1	0	1	"	A	
6	電動空気圧縮機 (東芝・MR2000D)	885	1	0	1	"	A	
7	ブレーキ制御装置 (東芝)	714	1	0	1	"	A	
8	ATS 機器 (東芝)	755	1	0	1	"	A	
9	扉開閉装置 (東芝)	898	1	0	1	"	A	
10	バックワット (東芝・PT58-A)	170	1	0	1	"	A	
11	空気遮断機 (東芝・KCB-106R)	270	1	0	1	"	A	
12	空気圧縮機 (東芝)	205	1	0	1	変電室・実習室	A	
13	電力系統盤 (東芝)	1,810	1	0	1	"	A	
14	受電変圧器盤 (東芝)	250	1	0	1	"	A	
15	交流電盤 (東芝)	610	1	0	1	"	A	
16	高圧電盤 (東芝)	200	1	0	1	"	A	
17	遠隔装置 (東芝)	2,750	1	0	1	"	A	
18	電子交換装置 (日本電気)	1,913.3	1	0	1	通信・実習室	A	
19	搬送装置 (日本電気)	1,376.7	1	0	1	"	A	

機材の利用・管理状況表（昭和61年度供与）

昭和63年3月31日現在

番号	機材名（メーカー名・形式等）	価格 （万円）	数			利用（保管）場所	利用状況	管理状況	備考（特記事項）
			供与数	処分数	現存数				
1	蓄電池装置（NIFE）	▲. 26,803	1	0	1	変電室・実習室		A	現地調達
2	整流器（LA CASA DE LOS RECTIFI- CADORES）	▲. 46,387	1	0	1	通信・実習室		A	"
3	パソコンエミュレータ（NEC APC111）	▲. 24,165	1	0	1	コンピュータ		A	"
4	マイコン（M/-・TRACFIC）	▲. 34,165	1	0	1	セクター内		A	（ソフトと作成済）

3. アルゼンティン側のプロジェクト実施体制

3-1 関係組織

FAの組織は総裁通達(Resolucion de Presidencia)によって定められることとなっているが、センターについては同通達上に何ら規定されていない。このため前回(第2回)の合同委員会において、日本側より、FAにおけるセンターの位置づけを明確にするためにも組織規定を整備するよう申し入れた。これに対しFA側は、昨年12月末までに通達を改正し、併せてセンターの内部組織についての規定も制定する旨表明しており、昨年11月の巡回指導調査団との間のミニッツにおいてもこのことが確認されているところである。

しかしながら、その後FA側の手続きが遅れており、調査時点においては新通達は定められていなかった。このため、再度センター組織についての通達の制定を申し入れたところ、一旦通達が定められたが改正を要する点があり、所要の改正を行ったうえで再度総裁の決裁を受けるべく手続き中であるとの説明があった。この点については、組織通達を直ちに制定することをミニッツで再確認した。

<追記>

7月14日付で総裁通達(Resolucion de Presidencia)第188号が制定された。内容は巻末資料3.のとおりである。

3-2 予算

センターの予算は、新組織発足後には建設費も含めセンターが自ら一元的に予算を管理することになっていたが、上述のように組織に関する通達が制定されなかったため、予算案の作成、執行等の業務は行われていない。合同委員会では、FA側から施設・機材の整備に関し、新組織発足後はセンター所長が予算要求を行うことになる旨の説明があった。

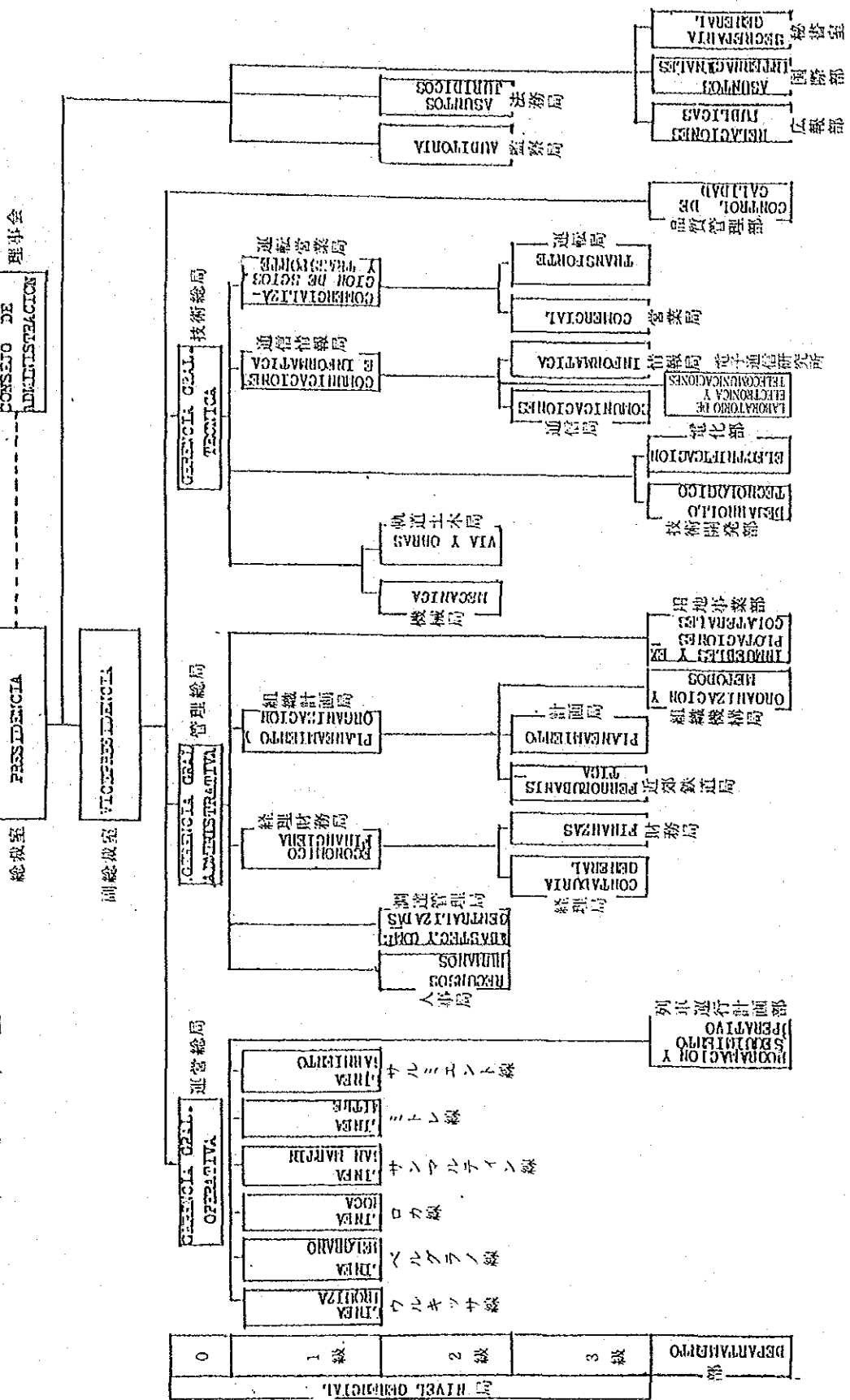
<追記>

前記総裁通達第188号においては、投資計画および予算案の作成についてセンターがこれを行うことを明記している(ANEXO 1. FUNCIONES ESPECIFICAS 7)参照)。

3-3 カウンターパートの確保

技術移転の効果がFAに定着し、さらに発展していくためには、技術を習得したカウンターパートが引き続きFAにとどまり、他の職員に技術を承継していく必要があるが、そのためには給与面のインセンティブも重要な要素になると考えられる。

ESTRUCTURA ORGANICA BASICA SUPERIOR - RES. P. N.º 612/87.
アルゼンティン国鉄組織図



FAの職階および給与体系は、本俸およびその他の諸手当に大別される。本俸は毎月定額で与えられ、職員の昇任に伴い昇給することになっている。管理職の職階は所管の組織に応じて次のとおり定められている。

President	
Vice President	
Departamento	1
"	2
Division	1
"	2
"	3
Seccion	1
"	2
"	3
Oficina	1
"	2
"	3

管理職以外は Escalafonado と総称され、職員ごとに給与額が定められている。

諸手当は管理職手当（本俸の10%）、時間外勤務手当、学歴手当（本俸の25%）、勤続年数手当（勤続1年について月額13.6アウストラル）、旅費、ボーナス（6月および12月にそれぞれ本俸の0.5ヵ月分）、資格手当（本俸の5%）、教育手当（本俸の5%）等があるほか、職種ごとに乗務手当、生産手当等が支給されている。

センターの教官には、CONET（国立教育技術審議会）の講習後に与えられるインストラクターの資格に対して資格手当（本俸の5%）が支給され、実際に教官になるとさらに教育手当（本俸の5%）が支給される。他の現場では別の手当が支給されているが、結果的にセンターで教官として勤務する方が不利になる場合もある。

現在のところ、車両—電気、車両—機械のカウンターパートはそれぞれ1名欠員となっているが、ロカ局から募集したところ試験に合格したものの2名とも辞退した。これは工場においては労使交渉の結果新たに生産手当（本俸の20%）が支給されることになったため、所遇面でセンターの教官になることがかえって不利になることによるものと考えられる。この点について合同委員会の席上指摘したところ、FA側でも優秀な教官が集まるような条件を考える旨の発言があった。

<追記>

今回の組織通達の制定に伴い、

センター所長 Departamento 1

センター副所長 Division 1

実習室主任 Seccion 1

教官 Oficina 1

という格付けがなされた。

3-4 受講者の確保

開設が予定されていたコースのうち、運転士コースおよび列車指令コースについてはまだ開講されていない。運転士コースについては労働組合がコースの実施について了解していないためであると推測され、また列車指令コースについては指令員の絶対数が不足しているとの説明があった。

日本側からは、運転士コースは運転分野の中心であり、R/D 策定時においても FA 側から強い要請があったものであり、これまでカウンターパートの研修や機材の提供も計画どおり行ってきたので必ず実施したいこと、列車指令コースについても一時的に受講者を集めるのではなく、長期的な要員措置を講じて研修を実施する必要があることを述べた。これに対し FA 副総裁からは速やかに新人採用計画および受講者リストを示す旨の発言があった。

3-5 建物および付帯施設の整備状況

第 2 回合同委員会においては、研修生用のトイレ、水道の整備、事務棟の屋根のふき替え、電圧ドロップ対策等について議論され、所要の整備を進めることとされていたが、進展はみられていない。

これについては、FA 側からは、トイレは設計も終わり入札するだけであり、水道についても設備はポンプを除き完成しており、ポンプを来週設置して手続きが終了すればいつでも供用できるという説明があった。この他専門家から倉庫の棚、カウンターパートがそれぞれ自分で工夫している機材等についても FA 側で予算措置を要請したところ、組織ができた以上まずセンターからの予算要求が必要であるとのことであった。

4. 今後の計画

このプロジェクトに対する協力もすでに3年目を迎え、ちょうど半ばを過ぎたところである。

今年度は7月に運転および信号の後任者が派遣され、続いて9月にはJICA調整員も交替し、さらに今年度末には、団長、車両—電気、車両—機械、電車線および通信の専門家が交替時期を迎えることとなっている。

しかし、今後の専門家派遣については、1987年4月に日本国有鉄道が民営分割されたことにより、鉄道技術分野における専門家がJR各社等に分散したため、非常に困難な状況にあることをFA側へ説明し、了解を求めた。

これに対し、FA側は理解を示したものの、R/Dにある通り専門家の派遣要請がなされたが、調査団側としては、日本へ持ち帰り、「できる限りあらゆる努力をしたい」旨回答した。

4-1 コース開設計画および教材作成計画

各分野別については、次の通りである。

I. 運転

1988・1989年度コース開設と作業計画 (運転)

Items	Año		1988												1989			1990			Observaciones					
	Mes		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	11	12	1	2
1-1 Curso para los señores (B.A.L.) 信号掛コース																										
(1) Iniciación de los cursos コース開設 (4 semanas)																										
(2) Confeción de los manuales y materiales didácticos auxiliares 教科書・補足教材の作成																										
a Manejo de los sensores en casos especiales y de accidentes 各信号扱所の特別な取扱いと異常時 の取扱の教科書を作成																										
b Confeción del manual "Método de enseñanza" para instrucción 教師の「教文方」手引書を作成																										
c) Confeción de los materiales didácticos audiovisuales 視聴覚教材の作成																										
d) Revisión de los manuales 現行教科書の見直し																										

Items	Año		1988												1989												1990			Observaciones
	Mes		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
1-2 Curso de B.A.L. para jefes y auxiliares de estación 駅長・駅役コース																														
(1) Iniciación de los cursos コース開設 (1 semana)																														
(2) Elaboración de manuales 教科書作成																														
a Conocimientos generales sobre electrificación en corriente alterna 交流電化一般概論																														
b Conocimientos sobre instala- ciones de seguridad y control R/V/D 運転保安設備とアノマロのR/V/D概論																														
c Conocimientos necesarios sobre tratamientos durante anomalías 異常時の取扱心得																														
(3) Conficción de los material didácticos audiovisuales 視聴覚教材作成																														

Items	Año		1988												1989												1990			Observaciones
	Mes		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
1-3 Curso de control de Tramos 列車指令コース (1) Iniciación de los cursos コース開設 (5 semanas) (2) Estudio nuevo diagramas de ordenamiento de tráfico 列車指令員に対する列車ダイヤ使用 方法 (3) Confeción de los materiales didácticos audiovisuales 視聴覚教材作成 (4) Revisión de los manuales 現行教科書の見直し																											* 教育はOJT方式で行 講師はP.C.Z.R.泉道			

II. 車両一電気

1988・1989年度コース開設と作業計画 (車両一電気)

1988-7

Items	Año		1988												1989			Observaciones										
	Mes		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		7	8	9	10	11	12	1	2	3	
Curso elemental y básico de material rodante eléctrico 1. 車両電気基礎-初級コース 6 Semanas Iniciación del curso (1) コース開設 Revisión de los textos actual mente en uso (2) 現行教科書の見直し Curso medio de material rodante parte 1 2. 車両電気中級 第1コース 3 Semanas Iniciación del curso (1) コース開設 (2) 聴覚教材作成 "Planos y diagramas (OHP) 以テテ國 (OHP) Revisión de los textos ac tualmente en uso (3) 現行教科書の見直し Curso medio de material rodante parte 2 3. 車両電気中級 第2コース 6 Semanas Iniciación del curso (1) コース開設																												Se capacitara para adquirir los conocimientos de la estructura, composición y funciones de las partes eléctricas de las Coches Como así también la capacidad de interpretar los planos y diagramas de aquellos partes. 口外授業電氣科の範囲内、正確に構成、機能、原理を、以テテ國の初歩の知識を得るべき。 Se instruirá para adquirir la capacidad de interpretar a alto nivel de los esquemas, funcionales de los circuitos de control de tracción, diagramas de control de freno y circuitos de protección. 以テテ國の初歩の知識を得るべき。 Se suministrarán los conocimientos sobre funcionamiento de las técnicas eléctricas, mediciones eléctricas y mantenimiento de los equipos eléctricos. 車両の電氣科の基礎と計画は、電氣科の修習者の知識を得るべき。

Items	Año	1 9 8 8												1 9 8 9												1 9 9 0			Observaciones
		Mes																											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
Confecion de textos y apendices de (2) 教科著作成とSpの技術習得 Parte complementaria sobre mediciones (A) 計測の増補版 Metodologias del mantenimiento de valvulas electromagneticas, relevadores, contactores, interruptores. (B) 電磁弁、接触器、レリヤ器等の保守の方法 Curso medio de material rodante parte 3 4. 車両電氣中級とコ-2 4 Semanas Inicacion del curso (1) コ-2開設 Confecion de textos y aprendizaje de tecnicas por pare de instrucciones (2) 教科著作成とSpの技術習得 Metodologias del mantenimiento del TCB, EGS y de los agujates y ensays del CS VCB, EGSの保守及CSの調整試験の方法 Confecion del material didactico audio visual (3) 視聴覚教材作成 Estructura y mantenimiento de los equipos electricos (dispositivos) 電氣設備の構造と保守 (システム) Curso especial de material rodante 5 車両電氣特設コ-2																												<p>Se instruirá sobre el mantenimiento de los equipos electricos (TCB y EGS). Ademas sobre las metodologias de inspeccion y pruebas del CS. 車両電氣特設 (TCB 等 EGS) の保守及CSの調整試験の方法を重点的に指導する。</p>	

Items	Año		1 9 8 8												1 9 8 9												1 9 9 0			Observaciones
	Mes		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
Inicicación del curso (1) コース開設 Rectificador principal 4 Semanas (a) 主整流器 4 Semanas Reloeador sin contactos 2 Semanas (b) 無接点继电器 2 Semanas Aprendizaje de técnicas por parte de instructores (2) 予の技術習得 Confección del material didáctico audio visual (3) 視聴覚教材作成 Planos y diagramas (OHP) ｼﾞﾀｰ図 (OHP) Tares comunes de cada curso 各コース共通の作業 Recolección de los estudios de fallas reales de material rodante (1) 車両故障例検討集 Ordenamiento y mejores de los equipos de practicas (2) 実習機番の整備改善																												Respecto a los equipos electrónicos (a) y (b) de la izquierda se suministran con conocimientos de elevado nivel sobre sus sistemas, funcionamiento y funciones. 左記(a),(b)の電子機器について、その設備の動作原理、構造等について高度な知識を付与する。		

III. 車両一機軸

1988・1989年度コース開設と作業計画 (車両一機軸)

1/2

Item 項目	1988		1989				1990				
	年	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1. Cursos elementales (2 semanas) y básicos (4 semanas) 基礎コース (2週間) と初級コース (4週間)											
(1) Establecimiento de cursos コース開設											
(2) Revisión de los manuales impresos. 現行教科書の見直し											
2. Curso medio (9 semanas) 中級コース (9週間)											
(1) Establecimiento de curso コース開設											

7 de julio de 88.
13 de julio de 88.
15 de junio de 88.

MRM 2/2

Item. 項目	1988			1989			1990			Observaciones 備考
	年 mes	月	日	年 mes	月	日	年 mes	月	日	
3. Cursos especiales 特別コース										
(A) Establecimiento de cursos (unimed) コース開設										
a. manuales b. equip. flexible y programaje. 柔軟形PTT組立機 c. engranaje reductor 減速歯車装置 d. equip. de peso neumático 空気圧機構 圧入補助 e. compresor, principal y auxiliar. 空気圧機構 圧入補助										
(B) Aprendizaje de los técnicos 技術の習得										
(3) Elaboración de manuales 教科書の作成										
4. Jornos comunes de cada curso. 各コース共通の作業										
(1) Confecion de manuales de utilización de los equipos de practica 実習機の使用マニュアルの作成										
(2) Mejoramiento y mejoras de los equipos de practica 実習機器整備改善										
(3) Elaboracion de textos complemental para instructores 教師用補足教材作成										

7 de julio de 88.
24.11 de julio de 88.
24.13 de julio de 88.
24.15 de julio de 88.

IV. 変配電

将来の開講予定分

中級コースの進み具合によっては特設コースを開設しようと考えていたが、現時点における中級最終コース(中級その4コース)開設予定が89.8～9であることと、各コースの教科書の見直し、ビデオ教材の作成等があるため、新しいコースを開講するだけの余裕は無い。

しかし、コース開設は別として、カウンターパートに対する幅広い知識、技術を習得させるため、変配電設備の基本設計に関する技術について、余裕を見ながら教えたいと考えている。

1988・1989年度コース開設と作業計画 (変配電)

Items	Año		1988												1989			1990			Observaciones										
	Mes		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	11	12	1	2	3				
1. Curso básico. (5 semanas) 初級コース (5週間) Iniciación de los cursos. (1) コース開設 Confección de los materiales didácticos audiovisuales. (2) 視聴教材作成 Revisión de los manuales. (3) 現行教材の見直し																											1-Generalidades de instalaciones de electrificación. Tipos y conformación de subestaciones. Sistema de alimentación. Ar circuito de alumbrado. Inspección diaria de equipos. 2-Fundamentos del encendido eléctrico. 3-Seguridad en tareas. 1. 電気設備の種類 2. 電気設備の種類と構成 3. AT-絶縁と接地 4. 電力の供給と配電 5. 電気設備の点検 3. 作業安全				
																												Conformación, verificación de las funciones y pruebas de equipos de transformación y distribución (1). Seccionadores, transformadores, pararrayos y compresores. 変配電機器の構造 検査、点検、試験 (1) 断路器、変圧器、避雷器、コンプレッサ			
2. Curso medio 1. (5 semanas) 中級その1コース (5週間) Iniciación de los cursos. (1) コース開設 Aprendizaje de las técnicas básicas. (2) 基礎技術の習得 Confección de la guía panorámica para instructores. (3) 教材の指導用資料作成 Confección de los materiales didácticos audiovisuales. (4) 視聴教材作成 Revisión de los manuales. (5) 現行教材の見直し Curso por Experto de corto plazo. (Contróles) 6) 短期専門家コース (2週間)																											2. Curso medio 1. (5 semanas) 3-Seguridad en tareas. 1. 電気設備の種類 2. 電気設備の種類と構成 3. AT-絶縁と接地 4. 電力の供給と配電 5. 電気設備の点検 3. 作業安全				
																												Conformación, verificación de las funciones y pruebas de equipos de transformación y distribución (1). Seccionadores, transformadores, pararrayos y compresores. 変配電機器の構造 検査、点検、試験 (1) 断路器、変圧器、避雷器、コンプレッサ			
																													Conformación, verificación de las funciones y pruebas de equipos de transformación y distribución (1). Seccionadores, transformadores, pararrayos y compresores. 変配電機器の構造 検査、点検、試験 (1) 断路器、変圧器、避雷器、コンプレッサ		
																														Conformación, verificación de las funciones y pruebas de equipos de transformación y distribución (1). Seccionadores, transformadores, pararrayos y compresores. 変配電機器の構造 検査、点検、試験 (1) 断路器、変圧器、避雷器、コンプレッサ	
																															Conformación, verificación de las funciones y pruebas de equipos de transformación y distribución (1). Seccionadores, transformadores, pararrayos y compresores. 変配電機器の構造 検査、点検、試験 (1) 断路器、変圧器、避雷器、コンプレッサ

Items	Año		1988												1989												1990			Observaciones
	Items	Mes	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
<p>3. Curso medio 2. (5 semanas) 中級電子コース (5ヶ月)</p> <p>Iniciación de los cursos. (1) コース開始</p> <p>Aprendizaje de las técnicas básicas. (2) 基礎技術の習得</p> <p>Confección de la guía panorámica para instructores. (3) 教師用指導要領作成</p> <p>Confección de los materiales didácticos audiovisuales. (4) 視聴覚教材作成</p> <p>Revisión de los manuales. (5) 現行教科書の見直し</p> <p>Curso por Experto de corto plazo. (Interrupción) (6) 短期専門コース(休止)</p>																											<p>Conformación, verificación de las funciones y pruebas de equipos de transformación y distribución (2). Interruptores, capacitores de baterías y baterías. 変圧機器の構造 機械、スイッチ、試験 (2) レギュレータ、充電器 バッテリー</p>			
<p>4. Curso medio 3. (5 semanas) 中級電子コース</p> <p>Iniciación de los cursos. (1) コース開始</p> <p>Confección de la guía panorámica para instructores. (2) 教師用指導要領作成</p> <p>Elaboración de manuales y aprendizaje de los técnicos. (3) 教科書の作成及びその技術の習得</p> <p>Confección de los materiales didácticos audiovisuales. (4) 視聴覚教材作成</p> <p>Revisión de los manuales. (5) 教科書の見直し</p>																											<p>1-Tableros de distribución y enclavamiento eléctrico. 2-Estructura, funciones, características, verificaciones y pruebas. 3-Funciones y uso de los equipos de prueba (1). 1. 配線盤及び心算機動作 2. 待機装置の構造、特性、点検、試験 3. 各種試験器の構造及び使いかた</p>			

Items	Año	1988												1989			1990			Observaciones											
		Mes																													
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	11	12	1	2	3					
5. Curso medio 4. (5 semanas) 5. 中級ヤグアコ-ス (5週履修) Iniciación de los cursos. (1) コ-ス解説 Confección de la guía panorámica para instructores. (2) 教材の指導要領作成 Elaboración de manuales y abreviados de los técnicos. (3) 教科書の作成及びVCR教材の習得 Confección de los materiales didácticos audiovisuales. (4) 複眼像作成 Revisión de los manuales. (5) 教材音の録音 Curso por Exerto de corto plazo. (Equipos de control distancia) (6) 短時間専門講座算 (遠方制御装置)																												1- Estructura, funciones verificaciones, pruebas y seguimiento de fallas de equipos de control a distancia. 2- Funciones y uso de equipos de prueba (2). 3- Tareas de órdenes de energía. 1. 遠方制御装置の構成 構成, 点検, 試験, 故障の排除 2. 各種試験器の構造及び使用 (2) 3. 電圧指令装置			
6. Tareas comunes de cada curso. 6. 各コース共通作業 Instalación de los equipos de práctica (1) 実習機器の据付 Confección de los manuales de los equipos de práctica. (2) 実習機器マニュアル作成 Preparación, ordenamiento y mejoras de los equipos de práctica. (3) 実習機器整備報告 Confección de material didáctico complementario. (4) 補充教材作成																															

V. 電車線

1988・1989年度コース開設と作業計画（電車線）

1

Items	Año		1988												1989			1990			Observaciones				
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		12	1	2	3
<p>1 Curso básico de catenaria 電車線初級コース (5週内) (1) Realización del curso コース実施 (2) Confección de los materiales didácticos 視聽覚教材作成 (3) Tareas con seguridad en catenaria 電車線路上における安全作業 (4) Corrección y agregado de materiales didácticos 現行教材修正及び補充 (5) Revisión de los manuales 現行教材の見直し 2 Curso de normalización de accidente 事故停旧コース (2週内) (1) Realización del curso コース実施 (2) Confección de los materiales didácticos 視聽覚教材作成 Redacción y registro de audiovisuales 収録及びテープ採集、ACV再録 (3) Revisión de los manuales 現行教材の見直し</p>																									<p>新人コース変更(安全管理講習) 視、電車線の急降、後日突 着、心算等基礎技術、知識に 与える。</p> <p>Confección de edición 改訂版作成</p> <p>電車線安全講習会、井上走 安全講習会、物田作業、ACV採集作 業、テープ採集、収録等実施。</p> <p>Confección de edición 改訂版作成</p>

Items	Año		1990												Observaciones				
	1	2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		1	2	3	
3. Curso mañanas de Catenaria 申級コース (5週間) (1) Realización del curso コース実施 (2) Confección de guía panorámica del curso 教師の指導要綱作成 (3) Elaboración de manuales y aprendizaje de las técnicas 教科書作成と7779-1-10 技術習得 (4) Confección de los materiales didácticos audiovisuales 視聴覚教材作成 a) 資料下 b) Retroproyecciones (5) Revisión de los manuales 作成教科書の見直し 4. Curso de noche de mantenimiento 保守用申コース (2週間) (1) Realización del curso コース実施 (2) Confección de guía panorámica del curso 教師の指導要綱作成 (3) Elaboración de manuales 教科書作成 (4) Confección de los materiales didácticos audiovisuales 視聴覚教材作成																			電線係保令担当者为K. 設備保令の知識 技能を指導する Confección de texto y planifica del curso 教科書作成及び補充要綱 Planear el programa de rutina y armonía de la instalación 原稿、原長状況の作成と検討 Se realiza por iniciativa de Contrapuntos 9/5 主体的に実施する。 電線係保令担当者为K. 保令指導要綱の作成及び指導する。

Items	Año		1 9 8 8												1 9 8 9												1 9 9 0			Observaciones
	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
<p>5 Curso especial de Caterania 特設コース (2週制)</p> <p>(1) Realización del curso コース実施</p> <p>(2) Confección de guía panorámica del curso 教師の指導要綱作成</p> <p>(3) Elaboración de manuales y aprendizaje de como començar 教材作成 及び 知識習得</p> <p>(4) Borrador japonés 日本語原稿案</p> <p>(5) Manuscrito japonés 日本語原稿</p> <p>(6) Borrador castellano 西語原稿案</p> <p>(7) Manuscrito castellano 西語原稿</p> <p>(8) Confección de los materiales didácticos 視聴覚教材作成 audiovisuals</p>																												<p>食卓等保全の修整者、並高者 等、事故防止管理を任せる コースを17校中。</p>		
<p>6 Tareas generales 各コース共通作業</p> <p>(1) Modificaciones de la Cateoría Sumulada 訓練案線改良</p> <p>(2) Instalación de estantes para la oposición 展覧棚新設 de materiales de cateoría</p> <p>(3) Instalación de depósito de materiales y horre- mentos de cateoría 工具材料倉設置</p> <p>(4) Reunión de apreciación de cursos コース評価会実施</p>																												<p>Obra de la línea Roa, participa- ción en la obra 口加高取工 施工は多口。 取付作業</p> <p>Se oirá opinión de línea Roa 口加高の可否を希望する取工。</p>		

1988.10.6

VI. 信号

1988・1989年度コース開設と作業計画 (信号)

6-1

項目 Artículo	年度 Año		1988												1989												記事 Notas
	月 Mes		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1. 初級コース Cursos básicos Establecimientos de cursos (Duración: 2 semanas) (1) コース開設(2週間) Revisión de los manuales impresos (2) 現行教科書見直し																											β <i>Los establecimientos de cursos de nivel básico se establecieron en el mes de agosto. Se capacitará sobre el personal relacionado al tráfico.</i>
2. 中級その1コース Cursos de nivel medio Parte 1 Establecimientos de cursos (Duración: 6 semanas) (1) コース開設(6週間) Confeción de Guía Panorámica (2) 教師の指導要綱作成 Revisión de los manuales impresos (3) 現行教科書見直し																											β <i>Se capacitará sobre el personal de las instalaciones que seguirán en funcionamiento. (Cambios concierne de vía características de la señal y de la distribución en concentradores) y técnica de normalización de accidente.</i>
3. 中級その2コース Cursos de nivel medio Parte 2 Establecimientos de cursos (Duración: 5 semanas) (1) コース開設(5週間) Confeción de Guía Panorámica (2) 教師の指導要綱作成 (3) 現行教科書見直し																											β <i>Se capacitará sobre el personal de las instalaciones de mantenimiento del dispositivo de seguridad de señal y una parte del personal de las instalaciones de normalización de accidente.</i>

凡例(Notes)
 ■ : 実績 (Ej. pendiente)
 — : 予定 (Programa)

項目	年度		1988												1989											
	年	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	Apr	May																								
Artículo Cursos de nivel medio 4. 中級コース Establecimiento de cursos (Duración: 6 Semanas) (1) コース開設 (6週間)																										
5. 継受連鎖コース Establecimiento de cursos (Duración: 6 Semanas) (1) コース開設 (6週間) Conexión de 6 via panamericana... (2) 教師の指導要綱作成 Revisión de los manuales impresos (3) 現行教科書見直し																										
6. 継受連鎖コースのコース Establecimiento de cursos (Duración: 3 Semanas) (1) コース開設 (3週間) Conexión de 9 via panamericana (2) 教師の指導要綱作成 (3) 教科書作成と技術人習得、de técnicos Higiene en el establecimiento por relevadores. * 継受連鎖要綱改定 Revisión de los manuales impresos (4) 現行教科書見直し																										

Preservaciones

中級コースは、中級コースの生徒が、
 を統合して、短期の養成コース
 とした。

El Curso Medio es un curso
 de capacitación elaborado
 de conformidad con el curso de
 Nivel Medio, Parte 1 y
 Curso de Nivel Medio
 Parte 2.

継受連鎖コースの安全と
 事故復旧技術を習得
 した。

Se capacitará sobre
 el mantenimiento del
 depósito de relevadores
 y sus técnicas de moni-
 torización de acci-
 dente.

継受連鎖要綱改定作業
 手続 (作図的実施等) の
 知識及び技術の習得、
 conocimientos y aprendizaje
 de las técnicas de las especia-
 lidades de mejoras en los
 dispositivos de mantenimiento
 por relevadores (Desde la

compleción de diagramas
 sobre la realización
 reactiva)

項目	年 度		1 9 8 8												1 9 8 9												三 年
	Año	Mes	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
Artículo Cursos específicos 6. 特設コース Cursos específicos a. (Duración: 3 Semanas) (1) 特設コース a. (3週間) Circuito de vía. (軌道回路) 3. 教師の指導要綱作成 Confesion de materiales didácticos y pedagógicos 4. 教科書作成と技術の習得 de técnicas. Circuito de vía 軌道回路 * 現行教科書見直し Revisión de los manuales impresos																											
(2) 特設コース b. (2週間) Maguina de cambio Confesion de Guías Parasísmica 又 教師の指導要綱作成 Confesion de materiales didácticos y pedagógicos 4. 教科書作成と技術の習得 de técnicas. Maguina de cambio. * 特設コース設置 Revisión de los manuales impresos 又 現行教科書見直し																											

Revisaciones

保全上、重要設備については設備単位の短期コースで深度に設計する。また、個人設備は部分の機能確認のため試験、測定等を行う。結果から欠陥の発生、残存寿命等の判断の要否を決定し得べき。

Se tratan de profundizar con cursos de capacitación las instalaciones con la finalidad de impartir para el mantenimiento. Ejecutando los ensayos y las acciones para la verificación de las funciones de los subestaciones individuales o parte de ellas, capacitarse para los conocimientos que se pueda determinar la vida útil y la necesidad de los testamentos, de los resultados de los ensayos y las mediciones.

項目	年度		1988												1989												備註	
	Ann	Month	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
Artículo																												<p>7. 各コース共通作業 Confesion de metruales libaciones Complementarias. (1) 補取教材作成 Habilitad y teste de la inspeccion de ★ 遠敷検査要領 Instruccion de ★ 信号設備保全要領 Habilitad y teste del mantenimiento de las instalaciones de Manual de Operación de los instrumentos de ★ 測距器取扱Ⅱ又Ⅲ又Ⅳ medición. ★ 実習機器取扱Ⅱ又Ⅲ又Ⅳ Manual de Operación de los equipos de práctica.</p>

項目	年度		1986												1989												三三
	Año	Mes	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
Artículo Confeción de los materiales didácticos audio- visuales. (R) 視聽堂教材作成 Dispositivos de enclavamiento por relevadores 線路建初装置 (Vías, Roto proyector, Dispositivos) Sala de relevadores de señalamiento 信号機器室 (Dispositivos) Circuito de vía 軌道回路 (Roto proyector, Dispositivos) Máquina de cambio 轉乙装置 (Vías, Roto proyector, Dispositivos) ATS y Pases a nivel ATS 及 踏切装置 (Vías, Roto proyector) Estadística de accidentes 事故統計 (Roto proyector)																											Preparación 電子設備の取付動作 取扱い等及び回路 装置の構成及び回路 図。
Ordenamiento y mejoras de los equipos de práctica (3) 實習機器整備改善																											Colocación, accionamiento, operación y circuitos de las instalaciones de señalamiento. Composición de los dispositivos y diagrama de flujo. 青森駅工機の手付 軌道回路 の構成 及び 訓練設備整 備。 Colocación de la máquina de cambio, Composición de circuitos de vías y ordenamiento y preparación de las instalaciones de entre- ramiento.

項目	年度		1958												1959												附註
	年	度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	Amo	Mes																									
Artículo Equipo de posición de Tromas. 8. 列車位置表示裝置 Establecimiento de curvas (Duración: 35 semanas) (1) 工又開家 (8週間) Aprendizaje de las técnicas básicas (2) 基礎技術習得 Compilación de Guías Pedagógicas (3) 教師指導要綱作成 Confecion de materiales didácticos y edición (4) 教科書作成上 Sp の技術向上 同時並行 Instalación de los equipos de practica (5) 實習機器操作 Confecion de los materiales didácticos audio- (6) 視聽覺教材作成 Visuales.																									Artículo 列車位置表示裝置の保修と 新設備旧設備の習得と並 Capacitar las técnicas de mantenimiento y de normalización de acci- onte del dispositivo indicador de número de Tromas.		

VII. 通信

1988・1989年度コース開設と作業計画 (通信)

Items	Año		1988												1989			1990			Observaciones		
	Mes		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	1	2	3			
<p>Curso de Central Telefónica electrónica (85)</p> <p>1. 電子交換機コース (8週間)</p> <p>Apertura del curso</p> <p>(1) コース開設</p> <p>Elaboración de manuales y orientación de Técnica para Sp</p> <p>(2) 教科書作成とSpの技術指導</p>																							<p>Se harán comprender sus estructura y sus funciones como así también adquirir los conocimientos específicos necesarios para tareas de mantenimiento como ser inspecciones, reparaciones de fallas, manejo de programas etc. 本装置について、構成機能と原理、検査、故障保全、70706の操作等について学生が専門知識を習得せよ。</p>
<p>Curso de Básico I (25)</p> <p>2. 初級Iコース (2週間)</p> <p>(Básico electrónico)</p> <p>(電気の基礎)</p> <p>Apertura del curso</p> <p>(1) コース開設</p> <p>Elaboración de guías panorámicas</p> <p>(2) 教師の指導要綱作成</p> <p>Elaboración de manuales y orientación de Técnica para Sp</p> <p>(3) 教科書作成とSpの技術指導</p>																							<p>Completamente con la simulación del grupo de Sp sobre circuitos básicos, también se harán adquiridos conocimientos básicos de los sistemas telefónicos y técnicos básicos de medición.</p> <p>基礎的初等電話に必要不可欠に、電話切替の原理知識、測定技術の習得についても期待せよ。</p>

Items	Año	1988												1989												1990			Observaciones
		/																											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
3. Curso de Sistema de cables (15) 通信ケーブルコース (1週間) Apertura del curso (2 veces) コース開設 (2回) Orientación técnica por el expositor de corto plazo 短期専門家による技術指導 Elaboración de guías panorámicas 教師の指導要綱作成 Elaboración de manuales y orientaciones de técnica para SP 教科書作成とSPの技術指導																										Se harán comprender las características de los cables de comunicación, junto al aprendizaje de los métodos de mantenimiento, particularmente en lo referente a métodos de grupo de empalmes de cables se hará aprender sus tecnologías mediante la realización de prácticas. 通信ケーブルの特性を理解し、その保全方法と習得等と共に、特にケーブル修理技術の口については、実習による技術指導を得させる。 Se harán comprender su estructura y sus funciones como así. También adquirir los conocimientos técnicos necesarios para tareas de mantenimiento como ser inspecciones, seguimientos de fallas, etc. 本装置について、如構成、機能と理解し、検査、故障			
4. Curso de Onda portadora (45) 4. ケーブル搬送電話装置 (4週間) Apertura del curso コース開設 Elaboración de guías panorámicas 教師の指導要綱作成																										Se harán comprender su estructura y sus funciones como así. También adquirir los conocimientos técnicos necesarios para tareas de mantenimiento como ser inspecciones, seguimientos de fallas, etc. 本装置について、如構成、機能と理解し、検査、故障			

Items	Año		1988												1989			1990			Observaciones								
	Mes		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	11	12	1	2	3		
(3) Elaboración de manuales y orientación de técnica para Gp 教科書作成とGpの技術指導 5. Curso de Equipo de posición de Troncos (85) 列車位置表示装置(8週向) Apertura del curso (1) コース開設 Elaboración de guías panorámicas (2) 教師の指導要綱作成 Elaboración de manuales y orientación de técnica para Gp (3) 教科書作成とGpの技術指導																												標本等保存に必要不可欠な技能を習得させた。 Se harán comprender su estructura y sus funciones como así también adquirir los conocimientos y técnicas necesarias para tareas de mantenimiento como ser inspecciones, seguimiento de fallas, etc. 本装置の構造、各部の機能、検査、故障排除等について、検査、故障排除等に必要な知識を習得させた。	
																													Referente a cada uno de los tipos de sistemas telefónicos como ser equipos de: teléfonos selectivos, concentrador de telefonía, talk back, teléfonos generadores, etc. Y principalmente los equipos terminales, se harán comprender sus estructuras y sus funciones técnicas como así también adquirir los conocimientos y técnicas necesarias para tareas de mantenimiento como ser inspecciones, preparaciones, etc. 指令電話装置、集中電話装置、自動電話装置、電話交換機、電話機等の構造、機能、技術的知識、検査、修理等に必要な知識を習得させた。
Curso de Basico II (25) 初級IIコース(2週向) (Sistemas Telefonos) (各種電話システム) Apertura del curso (1) コース開設 Elaboración de guías panorámicas (2) 教師の指導要綱作成 Elaboración de manuales y orientación de técnica para Gp (3) 教科書作成とGpの技術指導																													Referente a cada uno de los tipos de sistemas telefónicos como ser equipos de: teléfonos selectivos, concentrador de telefonía, talk back, teléfonos generadores, etc. Y principalmente los equipos terminales, se harán comprender sus estructuras y sus funciones técnicas como así también adquirir los conocimientos y técnicas necesarias para tareas de mantenimiento como ser inspecciones, preparaciones, etc. 指令電話装置、集中電話装置、自動電話装置、電話機等の構造、機能、技術的知識、検査、修理等に必要な知識を習得させた。
																													Referente a cada uno de los tipos de sistemas telefónicos como ser equipos de: teléfonos selectivos, concentrador de telefonía, talk back, teléfonos generadores, etc. Y principalmente los equipos terminales, se harán comprender sus estructuras y sus funciones técnicas como así también adquirir los conocimientos y técnicas necesarias para tareas de mantenimiento como ser inspecciones, preparaciones, etc. 指令電話装置、集中電話装置、自動電話装置、電話機等の構造、機能、技術的知識、検査、修理等に必要な知識を習得させた。

Items	Año		1988												1990			Observaciones												
	Mes		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		7	8	9	10	11	12	1	2	3			
Curso de Medio (45) 7. 中級コース (4週間) (F-1, Concentrador, Talk back etc.) (指令電話装置, 集中電話装置, ト-パ-ン等) Apertura del curso (1) コース開設 Elaboración de guías panorámicas (2) 教師の指導要綱作成 Elaboración de manuales y orientación de técnica para Sp (3) 教科書作成とSpの技術指導																												Referente a cada uno de los tipos de sistemas telefónicos como son aquellos de: teléfonos selectivos, concentrador telefónico, Talk back, Teléfono para voz, etc. se hacen comprobaciones sus estructuras y sus funciones como así también adquirir los conocimientos y técnicas necesarios para tareas de mantenimiento.		
																													Mayo → 指令電話装置, 集中電話装置, ト-パ-ン等, 有線電話装置, 各種電話の保守について, 検査, 構成, 技能を理解し, 検査, 故障探索等保全に必要の技能を習得せしむ。	
																														Se harán comprobaciones sus estructuras y sus funciones como así también adquirir los conocimientos y técnicas necesarios para tareas de mantenimiento.
																														Mayo → 本装置について, 検査, 構成, 技能を理解し, 検査, 故障探索等保全に必要の技能を習得せしむ。
JUNEX (45) 8. 列事情報案内表示装置 (4週間) Apertura del curso (1) コース開設 Orientación técnica por el experto de corto plazo (2) 短期専門家による技術指導 Elaboración de guías panorámicas (3) 教師の指導要綱作成 Elaboración de manuales y orientación de técnica para Sp (4) 教科書作成とSpの技術指導																														
																													Jun →	
																													Jun →	
																													Mayo →	

Items	Año		1 9 8 8												1 9 8 9												1 9 9 0			Observaciones									
	Mes		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3													
			9. Elaboración de materiales 視聽資料の作成																																				
10. Instalación de equipos para prácticas 実習機器の据付 (1) 機器据付 (2) 調整試験																																							Se elaboraron de acuerdo a cada curso コース毎に逐次作成
																																				JUNEX 列挙表示装置			

1988年7月現在

通信コ-ス設定計画 (見直し後)

curso コ-ス	87												88												89												90											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
1	Central telefónica 電子交換機 (8S)												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]											
2	Básico I (Básico eléctrico, Medicamentos, Computación, Inglés, Abogacía) 初級 I (電気, 薬, 英, 算, 英, 法)												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]											
3	Sistema de cables 通信ケーブル (1S)												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]											
4	Onda portadora ケーブル放送電話装置 (4S)												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]											
5	Equipo de posición de Taques 列車位置表示装置 (3S)												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]											
6	Básico II (Sistemas telefónicos) 初級 II (各種電話機) (3S)												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]											
7	Medio (F-20, TB, Mag., etc.) 中級 (指針電話装置, 磁石電話機, 磁石電話機, etc.) (4S)												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]											
8	Junex 列車情報案内表示装置 (4S)												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]											
[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												
(Montaje de equipos) (機器据付)												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												[Gantt chart bars]												

(凡例 Adversancia.)
 — (Elaboración de material)
 (教科書作成)
 == (Impresión y complemento)
 (印刷及び補足教材作成)
 /// (Dictado del curso)
 (コース実施)

JUNEX
 (列車情報)
 F-20, TB, Mag., etc.
 (指針電話装置, 磁石電話機, 磁石電話機, etc.)
 F-20, TB, Mag., etc.
 (指針電話装置, 磁石電話機, 磁石電話機, etc.)
 F-20, TB, Mag., etc.
 (指針電話装置, 磁石電話機, 磁石電話機, etc.)
 F-20, TB, Mag., etc.
 (指針電話装置, 磁石電話機, 磁石電話機, etc.)

4-2 専門家派遣計画

現在、派遣中の専門家は、次頁の通りである。

なお、今年度の短期専門家派遣は次の通り計画している。

(1) 通信ケーブル接続技術指導

10/14～11/22 1名

(2) 変配電・遠方制御装置の保守指導

10/14～11/22 1名

また、1989年度には、次の通り2回の短期専門家派遣を計画している。

(1) 交流しゃ断器の点検等の技術指導

9～12月頃約1ヵ月間 1名

(2) コンプレッサーの細密点検等の技術指導

9～12月頃約1ヵ月間 1名

項目	1985	1986	1987	1988	1989	1990
・協力期間	11/28					
1. チーム・リーダー	3/18		上野 勝敏 2/29			11/27
2. 業務調整員	3/18		松本 征吾 3/17	9/7 9/17 北中 真人		11/27
3. 運転	3/18		町田 臣 3/1	7/15 水田 詔三 2/28		
4. 車両・電気	3/28	森藤 昭彦	10/31 11/10	森 英博 2/28		
5. 車両・機械	6/10	日高冬比古 3/10				
6. 変配電	6/10	篠崎 清 2/28	6/2	原 彰 2/28		
7. 電車線	6/10	藤田 幸一 2/28	4/21 藤田 幸一	2/28		
8. 信号	3/18	水吉 邦雄 3/11	7/15 柴 隆博 2/28			
9. 通信		6/2 菅原 秀夫 2/28				
10. 短期		野沢 利男 海老名信次 柳崎 正晴 8/12-9/12-運転・車両×3 高梨 正志 清水 泉 8/23-9/21-変電×2 東 弘生 8/12-9/21-搬送×1 矢口 達夫 8/12-11/2-電子交換機×1 竹花 正章 小坂橋一朗 10/20-12/6-電車線×2	10/14-11/22-変電送方制御×1			

4-3 研修員養成計画

前年度に引き続き、今年度も ZANELLI 副総裁を含めた次の 4 名の研修計画が予定されている。

なお、この他に車両一機械、変配電の 2 名を追加枠で要請している。

- (1) 鉄道一般 Hector H. ZANELLI 1988.8.18~9.2 (終了)
- (2) " Carlos D. DENDARYS 1988.10.13~11.11
- (3) 運 転 Francisco R. SOTO
- (4) 通 信 Danial O. RODRIGUEZ } 1988.10.20~12.9

さらに1989年度は、4～6名の研修計画を予定している。

5. アルゼンティン側との協議等

5-1 アルゼンティン側との事前の意見交換

合同委員会に先立って FA サネリ副総裁と意見交換を行った。まず、豊田団長より、今回の調査団の主要協議事項として、1.センターの組織、2.カウンターパートの不足、3.今後の日本人専門家派遣計画を示した。これに対しサネリ副総裁は、センターが今後の FA における教育の出発点であり、第二段階としてはこのセンターを核としてコースを充実し、発展させていきたいこと、そのための課題について明日以降協議したい旨述べた。また、副総裁は、自分の日本研修については総裁・公共事業者の了承を得る必要があること、および研修の内容として日本の鉄道施設、研修制度、国鉄の分割民営化を組み入れてほしい旨述べた。

次に、公共事業省運輸庁の運輸政策企画部長とプロジェクトの将来にも関わるであろう FA の民営化を中心に意見交換を行った。また、これに関連して運輸庁とともに大きな役割を果たしている公共企業管理委員会ガハン委員にも面会し、FA 民営化の現状についての説明を受けた。

5-2 合同委員会

今回の合同委員会は、昨年12月1日の第2回に続く第3回の合同委員会であった。第1回はサイトの変更についての議論、第2回はセンターの組織の確立が中心になったが、今回は、依然として組織に関する通達が制定されていなかったため、再度組織の問題について話し合うとともに、研修生の確保およびカウンターパートの補充について協議した。

この他、FA 側からセンターでの研修に加えて車両工場業務のための研修をしてほしい旨の要望が出された。

FA 側からはサネリ副総裁、バルレッタ顧問以下関係局長が出席するとともに、運輸庁からレシオ運輸政策企画部課長が出席した。日本側からは上野リーダー、蔵田専門家、調査団、JICA アルゼンティン事務所上村所長、青木業務第二課長および江塚担当、在アルゼンティン日本大使館望月一等書記官が出席した。

なお、合同委員会議事録については、同委員会が本来現地ベースのものであり、西文の内容確認に時間を要するため、今回は調査団とは別に、後日、合意された時点で FA 副総裁とリーダーの間で署名確認することとした（巻末資料参照）。

5-3 ミニッツ

合同委員会等における協議内容はミニッツの形式でまとめ、従来どおり英文のものを正本とし、西文についても署名した。FA 側サネリ副総裁および日本側豊田団長が署名を行った

が、FAだけでなくアルゼンティン政府省庁からの協力を確保するため、従来どおりアルゼンティン側外務省ユフノフスキー国際協力次官補および運輸庁レヴィ運輸政策企画部長の署名も行われた。

6. 調査団総合所感

センターの建設予定地の変更もあって、コースの開設が当初の R/D の計画より 3～6 ヶ月程度遅れたものの、専門家およびカウンターパートの熱意により概ね順調に進められている。

FA 内部における CENACAF の組織的位置づけおよび予算の明確化、カウンターパートと研修生の確保および待遇の改善等については、今回かなりの前進が見られた。今後は、CENACAF が、協力期間終了後も FA の研修の中核として長期にわたって寄与するよう、2 年たらずとなった協力期間内にどこまで実効をあげられるかにかかっている。

(1) 専門家の派遣

長期専門家のうち、リーダーはじめ数名が 1989 年 2 月で交替時期を迎えるが、分割・民営化後の JR からの派遣が、JNR 時代に比べて難しくなっており、合同委員会においても日本側の国内事情について説明を行った。これに対し FA 側は理解を示しながらも、R/D に則して専門家を派遣するよう強く要請したため、調査団としては関係機関と協議してできる限り努力すると回答してきた。

帰国後、関係者の熱意と努力により、それぞれの交替要員の目途がついたようであるが、今後の短期専門家の派遣や他のプロジェクトのためにも国内の派遣・協力体制を整備する必要がある。

(2) 車両工場職員の研修

FA では、当初ロカ線の竣工のあと、同国初めての電車の検査・修理を行う近代的な車両工場を「キロメートル・10」に建設すべく、日本側の開発協力による提案も受けていたが、その後の経営状況の悪化によって、この計画は事実上廃案となっている。

一方で、開業以来順調に走行を続けている車両群が、分解整備の時期を迎え、このままでは整備不良のため使用できなくなる恐れが生じてきた。FA では外注などいろいろな方策を検討してきたが、FA の車両担当は、緊急避難として既設のエスカラード工場のレイアウトおよび設備を改修し、ここに電車工場を整備することとして、わずかずつながら作業に着手した。その一環として検修作業の中核となる職員の研修を CENACAF に依頼してきた。専門家としては R/D との関係や、時間・要員の面で余裕が少ないため難しいとしながらも、日本製の車両が傷んでいくのを放置するわけにもいかず、R/D の期間内で余裕のある範囲でできるだけの協力を行うこととし、既に一部のコースを始めている。

調査団に対しても FA 側から協力要請があったが、基本的には FA 側の熱意の大きさが、今後の重要なポイントとなることを言い、日本側でも持ち帰ってその対応を検討すると回答した。

次回のエバリュエーション調査団の派遣までには、現地の状況も踏まえて日本側の方針を検討しておく必要がある。

7. その他

7-1 エスカレーター工場の状況

調査期間中、センター近くのエスカレーター車両工場を見学した。同工場は今世紀初めに建設されたものであり、各施設は著しく老朽化している。特に電車の検査・修理を行っている部署では一部屋根が破損したまま放置されているような状態であり、必要な機材もなく、現在運行されている車両が一定期間経過後に、同工場において全面的な検査・修理を行うことは不可能であると思われた。

これについて、合同委員会場でFA側から「車両についての工場関係職員のためのコースは当初計画にはなかったが、現場ではいろいろと困難が生じており、協力をお願いしたい。教育計画の策定および実行に関し専門家の派遣期間の延長等ができないだろうか」という問い合わせがあった。日本側からは「ミッションとしてはR/Dを越えて協力を行うか否かについて言及する権限はないが、教育計画、実行方策等について可能な範囲で助言を行うのはかまわない。その後の協力については継続して協議する必要がある。いずれにせよ、FAとしてエスカレーター工場をどうするかは今後の重要問題である」旨回答した。

7-2 FAの民営化の動向

(1) アルゼンティンにおける公営企業の民営化の動向

公共企業管理委員会 (Directorios de Empresas Públicas) は、1986年11月、公共部門合理化政策 (政府および公共企業の合理化) の一環として、公共企業の効率化と独立採算に必要な施策の実施を目的として設立された機関で、その対象となっている公共企業には、次の13企業がある：

石油公社、石炭公社、ガス公社、水・電力公社、グラン・ブエノスアイレス電力公社、国鉄 (FA)、アルゼンティン航空、電話公社、郵便・電信公社、パタゴニア北部電力公社、港湾局、海運局、上・下水道局。

これら公共企業のうち、既に合理化のための具体的な手続きの進んでいるものには、アルゼンティン航空と電話公社があり、また石油公社、国鉄については、それぞれの機構を分割し、民営に移管しようとする構想が検討されている。

アルゼンティン航空：民間資本の導入

国の保有する株式の49%を民間へ移譲しようとするもので、既にスカンディナヴィアン航空 (SAS) へ持ち株の40%を譲渡しようとする合意書が取り付けられている。残り9%については、従業員の持ち株となる見込み。

なお、株式の民間譲渡に当たり、同社の有する対外債務は全額国庫が負担するこ

ととなっている。

電話公社：民間企業との合弁

民間企業の資本参加により新しい合弁会社を設立せんとするもので、既にスペインの電話会社（Compania Telefonica de España）との間で、これに関する合意書が調印されている。

新合弁会社の資本金総額	約750百万ドル（推定）
うちスペイン電話会社の出資額	40%以内

石油公社：民営移管の構想

同公社を部門別に分割し（生産、輸送、販売の3部門）、それぞれ独立した企業として運営しようとするもの。

国鉄（FA）：民営移管の構想

FAを部門別に分割し（貨物、長距離旅客、首都圏旅客、不動産の4部門）、民営化しようとする構想が検討されている。

（注） 国鉄の赤字

過去6年間における赤字の国庫補填	6,400百万ドル
” 国鉄の運賃収入	1,800百万ドル
年間平均赤字額	700百万ドル
1日当たり ”	1,900千ドル

国営企業合理化のため、これらを改組または民営化するためには、法律改正を必要とし、国会の承認が不可欠である。一方、国営企業の改組、民営化については、各企業の労働組合はもとより、従来企業の国有化を推進してきたペロン党が真っ向から反対しているため、これの実現は容易でないものと想像される。

（注） 以上はすべて7月25日までの新聞報道に基づく。

(2) 運輸庁運輸政策企画部長からの情報

運輸庁運輸政策企画部長との意見交換においてレビ部長は、運輸庁とFAはFAの民営化について合意しており、FAが大組織のため、部分的な民営化を考えて、1987年末に民営化の前段階として所要の法律を制定したことを述べた。調査団からの、1988年4月に民営化の発表があったのではないかとの問いに対しては、アイデアはあるが具体的にどうするかは未定であり、公共企業管理委員会および運輸庁が検討している旨答えた。レビ部長によれば、公共企業の民営化を進めるために制定した法律に基づき、各企業体より構想を提出させているところであり、民営化の内容は各企業体に委ねられている、現にELMA（石油公社）、ENTEL（電話公社）、AA（アルゼンティン航空）等も各企業が独自に民営化したとのことである。またFAについては、全体を一時に民営化するのではなく部分的に民

間投資を進めていくのではないか、この意味で民営化は民間投資の有無によるので、民営化の時期は出資する民間企業が出てくるかどうかにかかっているとのことであった。

(3) 公共企業管理委員会委員からの情報

合同委員会終了後さらにFAの民営化について調査するため公共企業管理委員会ガハン委員に面会し、説明を受けた。ガハン委員によれば、FAの民営化については既に大統領および公共事業大臣の承認を得ており、まず貨物サービスについて出資をする民間企業と折衝中である、是非日本企業にも出資してほしいとのことであった。貨物の新会社は51%以上民間出資、残りをFAが出資することにより設立され、FAの貨物サービス(DC400両、FC23,000両を含む)を承継する。承継は1989年1月1日が目標であり、既にアルゼンティンのセメント会社、鉄道車両会社、物流会社等が出資を表明している。新会社にはFAの長期債務は引き継がせない。新会社については、世銀アドバイザーのトンプソン氏(アムトラック、コンレイル等の経験あり)等とFAのスタッフがチームを作り、①5年間の収支予測、②法律問題、③管理運営体制について分析・評価している。貨物以外の分野を都市近郊線、長距離線および不動産に分割することについては、まだ検討中であるが、イタリアの企業が都市近郊線に関心を持っているとのことであった。

63/7/7

第 5657号 (4)

国鉄、サービス部門ごとに
各社独立採算へ 検討中

テラニョ公共事業相は五日
コルドバ市の株式取引所での
講演で、「ア国々鉄を貨物専
用、一般旅客、近郊通勤・都
市間サービス、不動産の四部
門に分け、それぞれ独立採算
方式の会社にするプランを檢
討中」と発表した。

テラニョ公共事業相は、こ
れらの新会社は、まず貨物専
用会社から設立するが、新規
の鉄道会社には一般の資本参
加(株取得による)を認める
ことになつてゐる、とも述べ
た。(不動産部門は駅構内の
売店、鉄道沿線の土地利用な
ど)

また、キエフト国鉄総裁は
ウニオン・フエロビアリア、
ラ・フラテムエダの国鉄関
係労組と鉄道関係工業連合及
び鉄道工事関係業界が、国鉄
運営再建、近代化のため五カ
年計画で約四十億の資金投
資を行うプランを練つてゐる
事を明かにしたが、第一年度
は鉄道の運営と旅客サービス
面の大改革を行ない国鉄及び
従業員への信頼を得る改革を
行うという。

巻末資料

1. ミニッツ (英文, 西文)
2. 合同委員会議事録 (西文, 和文)
3. CENACAF組織規定
4. アルゼンティン国鉄の概況
5. アルゼンティン国鉄根拠法令 (西文, 和文)
6. ロカ線電化の現況
7. サンマルティン線電化計画に伴うソ連の技術協力計画

1. ミニッツ (英文, 西文)

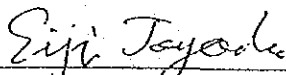
THE MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE ADVISORY SURVEY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE ARGENTINE REPUBLIC ON THE PROGRESS AND IMPLEMENTATION OF
THE NATIONAL RAILWAY TRAINING CENTER PROJECT

The Japanese Advisory Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency and headed by Ing. Eiji TOYODA visited the Argentine Republic from July 21 to 29, 1988 for the purpose of reviewing the progress of the National Railway Training Center Project (hereinafter referred to as "the Project") which was started on the 28th November, 1985, according to the Record of Discussions (hereinafter referred to as "the R/D") signed on the same day.

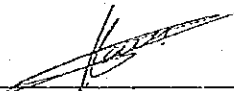
During its stay in the Argentine Republic, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Argentine authorities concerned.

The result of discussions is attached hereto.

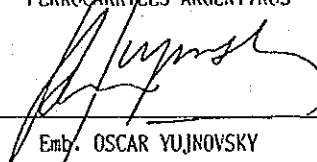
Buenos Aires, July 28, 1988.



Ing. EIJI TOYODA
LEADER
ADVISORY SURVEY TEAM
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY



Ing. HECTOR H. ZANELLI
VICE PRESIDENT
FERROCARRILES ARGENTINOS



Emb. OSCAR YUJNOVSKY
UNDERSECRETARY OF
INTERNATIONAL COOPERATION
MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS



Lic. DANIEL E. LEVY
DIRECTOR OF TRANSPORT POLICY
AND PLANNING
SECRETARY OF TRANSPORT

1. Organization

The team expressed its concern about the absence of a formal organization of the National Railway Training Center (Centro Nacional de Capacitacion Ferroviaria : hereinafter referred to as "CENACAF") which should have been established in the form of the Resolucion de Presidencia by the end of 1987.

The Ferrocarriles Argentinos (hereinafter referred to as "the FA") stated that it had already prepared the organization plan of CENACAF and had submitted it for the approval of the President after making a necessary amendment.

The Team requested that the FA report the finalized organization plan of CENACAF, with its grade within the FA, to the Team.

2. Counterpart personnel

For effective and successful transfer of technology, the Team requested that the FA allocate qualified counterpart personnel to each Japanese expert in the field of Rolling Stock Maintenance Training (Electricity and Machinery) as specified in IV of the Annex of the R/D for the Project.

The FA stated that, as it could not recruit counterpart personnel from the Roca Line, it was in the process of recruiting the candidates from the other Lines. So far, one senior engineer (Ingeniero) and two junior engineers (Técnico) had applied from the Sarmiento Line.

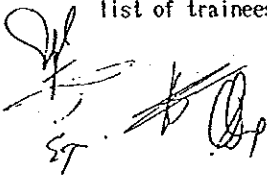
The Team suggested that the FA should recruit the candidates also from the Roca Line and improve its current allowance system for the instructors at CENACAF if it caused difficulty in the recruitment.

The FA confirmed that it would make necessary arrangements to assign qualified counterpart personnel to CENACAF according to the R/D for the Project.

3. Trainees

Reviewing the planned courses of CENACAF, the Team expressed its regret over the delay of implementing the Drivers Course and the Operators Course in the field of Train Operation Training. These two courses were not yet started because the FA could not send trainees to these courses. The Team suggested that the FA develop its own long-term training program for operators and secure sufficient number of personnel to facilitate its implementation.

The FA promised to have a meeting of the managers of the Roca Line, the Human Resources and CENACAF, to identify the problems and find the solution, and report the list of trainees for these courses within 15 days.

Handwritten signatures and initials, including a large signature on the left and several smaller ones to its right.

4. Training for rolling stock maintenance at workshop.

The FA recognized the necessity of developing a rolling stock maintenance system at workshop and requested the team to provide the assistance and advise of the Japanese experts for developing a training course in this area.

The Team stated that the Japanese experts might be able to assist and advise the counterpart personnel in developing the training course for rolling stock maintenance at workshop within the framework of the R/D for the Project.

5. Local cost

As for the facilities of CENACAF discussed at the second Joint Committee, the FA reported that it was currently constructing some of the facilities and committed to continue to take necessary measures to construct and improve those facilities. The FA stated that CENACAF would independently develop its own budget plan once its formal organization plan was finalized.

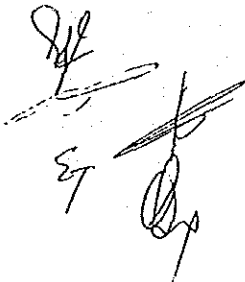
6. Future plan

Both parties confirmed that the FA would further utilize the assets of CENACAF such as its equipments and human resources with knowledge of advanced technology.

7. Japanese expert dispatch plan

The Team explained the current difficulty in the Japanese experts dispatch plan in the area of railway engineering, due to the reorganization of the Japanese National Railways in April of 1987. Although the FA acknowledged their understanding of the difficulty, they requested that JICA dispatch the Japanese experts to the Project, as described in the R/D for the Project.

The Team committed to inform the Japanese authorities concerned of the FA's request and make every effort to provide the Japanese experts as defined in the R/D.

Handwritten signatures and initials in black ink, including a large signature at the top, a smaller signature below it, and the initials 'ET' to the left.

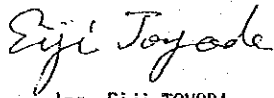
MINUTA DE DISCUSIONES
ENTRE LA MISION JAPONESA DE CONTROL DE GESTION
Y
LAS AUTORIDADES CONCERNIENTES DEL GOBIERNO DE LA REPUBLICA ARGENTINA
SOBRE EL DESARROLLO E IMPLEMENTACION DEL PROYECTO CENTRO NACIONAL
DE CAPACITACION FERROVIARIA

La Misión Japonesa de Control de Gestión (en adelante denominada "la Misión") organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante denominada "JICA") y encabezada por el Ing. Eiji TOYODA, visitó la República Argentina desde el 21 de Julio al 29 de Julio de 1988, con el propósito de verificar el progreso del Proyecto del Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria (en adelante denominado "el Proyecto") que comenzó el 28 de noviembre de 1985 de acuerdo a la Minuta de Discusiones firmada en ese mismo día.

Durante su estadía en la República Argentina, la Misión intercambió opiniones y tuvo una serie de discusiones con las autoridades argentinas concernientes.

El resultado de esas discusiones se adjunta.

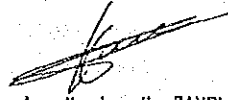
Buenos Aires, 28 de Julio de 1988.



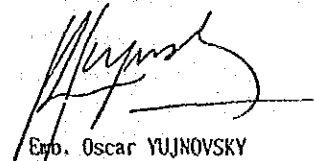
Ing. Eiji TOYODA

JEFE

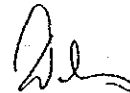
MISION DE CONTROL DE GESTION
AGENCIA DEL COOPERACION INTERNACIONAL
DEL JAPON



Ing. Hector H. ZANELLI
VICEPRESIDENTE EJECUTIVO
FERROCARRILES ARGENTINOS



Emb. Oscar YUJNOVSKY
SUBSECRETARIO
SUBSECRETARIA DE COOPERACION INTERNACIONAL
MINISTERIO DE RELACIONES EXTERIORES Y CULTO



Lic. Daniel LEVY
DIRECTOR NACIONAL DE POLITICA Y
PROGRAMACION DEL TRANSPORTE
SECRETARIA DE TRANSPORTE

1. Organización

El Equipo expresó su preocupación sobre la ausencia de organización formal del Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria (en adelante "CENACAF") que debería haberse establecido en la forma de Resolución de Presidencia a fines de 1987.

Ferrocarriles Argentinos (en adelante "FA") contestó que ya había preparado el esquema orgánico del CENACAF y lo había enviado para la aprobación del Sr. Presidente después de hacer las correcciones necesarias.

El equipo requirió que FA le haga entrega del esquema final de CENACAF, con su dependencia dentro de FA.

2. Personal de Contraparte.

Para la efectiva y exitosa transferencia de tecnología, el equipo requirió que FA destinara personal de contraparte calificado a cada Experto Japonés en las áreas de Mantenimiento de Material Rodante (Partes Eléctrica y mecánica) como se especifica en el punto IV del Anexo a la Minuta de Discusiones para el Proyecto.

FA respondió que al no poder encontrar personal de Contraparte en la Línea Roca, estaba en proceso de búsqueda en otras Líneas. Hasta el momento un ingeniero y dos técnicos se habían postulado en la Línea Sarmiento.

El equipo sugirió que FA debería buscar los candidatos también en la Línea Roca y mejorar el sistema de bonificaciones para los Instructores del CENACAF en caso de ser eso lo que causaba dificultades en la búsqueda.

FA confirmó que haría los arreglos necesarios para asignar personal de contraparte calificado al CENACAF de acuerdo a la Minuta de Discusiones del Proyecto.

3. Participantes.

Revisando los cursos previstos del CENACAF, el Equipo expresó su inquietud sobre la demora en implementar los Cursos de Conductor y de Operador en el área de capacitación de Operativa.

Estos dos cursos no han comenzado aún porque FA no pudo enviar participantes. El Equipo sugirió que FA desarrolle su propio programa de capacitación a largo plazo para operadores y asegure suficiente número de personal para facilitar esta implementación.

FA prometió tener una reunión entre las Gerencias de Línea Roca, Recursos Humanos y CENACAF, para identificar el problema y encontrar la solución, reportando la lista de participantes a esos cursos en el plazo de 15 días.

4. Capacitación para el personal del taller.

FA reconoció la necesidad de desarrollar un Centro de Reparación de material rodante y requirió al Equipo proveer la asistencia y asesoramiento de los Expertos Japoneses para desarrollar un curso de capacitación en ese área.

El Equipo afirmó que los Expertos Japoneses podrían asistir y asesorar al personal de contraparte en desarrollar los cursos de mantenimiento de material rodante en Taller dentro del marco de la Minuta de Discusiones para el Proyecto.

5. Aporte local.

Sobre las facilidades del CENACAF discutidas en el Segundo Comité Conjunto, FA informó que estaba construyendo actualmente algunas de ellas y se comprometió a continuar con las medidas necesarias para construir y modificar dichas instalaciones. FA afirmó que CENACAF deberá preparar su propio presupuesto una vez que su organización formal esté finalizada.

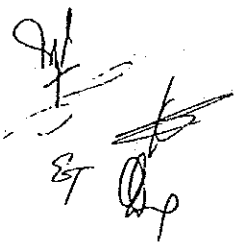
6. Plan futuro.

Ambas partes confirmaron que FA debiera utilizar aún más las instalaciones del CENACAF incluyendo sus valiosos equipos y recursos humanos con dominio de moderna tecnología.

7. Plan de envío de Expertos Japoneses.

El Equipo explicó la dificultad actual en el plan de envío de Expertos Japoneses en el área de Ingeniería Ferroviaria, debido a la reorganización de JNR en Abril de 1987. Aunque FA reconoció su comprensión de la dificultad, requirió que JICA envíe los Expertos Japoneses del Proyecto como se describe en la Minuta de Discusiones del Proyecto.

El Equipo se comprometió a informar a las autoridades japonesas concernientes, del requerimiento de FA y hacer todos los esfuerzos para proveer los Expertos Japoneses como se define en la Minuta de Discusiones.

Handwritten signatures and initials in black ink, including a large signature at the top, a smaller signature below it, and the initials 'ET' and 'QP' at the bottom.

2. 合同委員会議事録（西文，和文）

MINUTA DE LA TERCERA REUNION DEL COMITE
CONJUNTO PARA LA IMPLEMENTACION DEL PROYECTO DEL CENTRO
NACIONAL DE CAPACITACION FERROVIARIA

Conforme a la Minuta de Discusiones firmada en Buenos Aires el día 28 de Noviembre de 1985, se está llevando a cabo el Proyecto del Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria (en adelante denominado "PROYECTO"), con el propósito de capacitar a los técnicos de nivel medio que trabajan o trabajarán en la operación y mantenimiento de la electrificada Línea ROCA de Ferrocarriles Argentinos, a fin de mejorar su capacidad y sus conocimientos técnicos y contribuir, por lo tanto, al desarrollo del transporte en la República Argentina.

Durante la permanencia de la Misión Japonesa de Control de Gestión (en adelante denominada "Misión"), organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA), y presidida por el Ing. Eiji TOYODA, el 26 de Julio de 1988, se realizó la tercera reunión del COMITE CONJUNTO en el edificio central de Ferrocarriles Argentinos, conforme al art. VII, 7 de la Minuta de Discusiones del 28 de Noviembre de 1985.

Ambas partes, en base al Informe del Grupo de Trabajo Argentino-Japonés, intercambiaron opiniones sobre el estado de ejecución del PROYECTO desde el 2 de Diciembre de 1987 hasta el presente y Plan de Ejecución para los años 1988 y 1989. Como resultado de las discusiones, se ha elaborado el documento adjunto, cuyo contenido se confirma.

Buenos Aires, 1 De Agosto de 1988.

Katsuyoshi Ueno.

Ing. Katsuyoshi UENO
Asesor Principal Japonés
Proyecto del Centro Nacional
de Capacitación Ferroviaria

Héctor Zanelli

Ing. Héctor ZANELLI
Vicepresidente Ejecutivo
Ferrocarriles Argentinos

DOCUMENTO ADJUNTO
CONTENIDO DE LAS DISCUSIONES

Se inició la reunión con las palabras del Sr. Vicepresidente de Ferrocarriles Argentinos, Ing. ZANELLI, quien expresó lo siguiente:

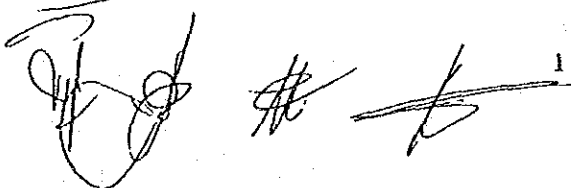
"Quiero manifestar a ustedes el placer de trabajar juntos en un proyecto tan concreto y tan importante para Ferrocarriles Argentinos. Por ese motivo hemos citado a todas las áreas involucradas en el proyecto para resolver todos los problemas que se presenten en cada sector. Este grupo de gente tendrá como misión cumplir los objetivos que trazamos para este Centro de avanzada: efectuar la capacitación dentro de la Empresa sirviendo como ejemplo para todos los sectores de la misma.

Habiendo cumplido la primera etapa de ubicación del lugar geográfico de las instalaciones y el desarrollo de los primeros cursos, queda pendiente la consolidación del Centro en esa tarea. Debemos ampliar la capacitación que brinda el Centro, llevándolo a desarrollar actividades superiores a las programadas. En ese sentido, les pedimos el asesoramiento necesario para programar actividades de capacitación adicionales.

En síntesis, para consolidar la labor que esta en marcha, es que nos sentamos a esta mesa para buscar puntos de coincidencia".

En respuesta a estas palabras el Jefe de la Misión de Control de Gestión, Ing. TOYODA, manifestó lo siguiente:

"En esta oportunidad tiene lugar la tercera reunión conjunta. Como



mencionó el Sr. Vicepresidente en la primera reunión, fue objeto de discusión la ubicación física del Centro, mientras que la segunda reunión coincidió con la inauguración del CENACAF.

A pesar de que hubo una inquietud respecto a la modificación de la ubicación del Centro, ahora estoy muy satisfecho con lo realizado hasta el momento, gracias al esfuerzo de FA, Gerencia de la Línea Roca, Contraparte Argentina y los Expertos.

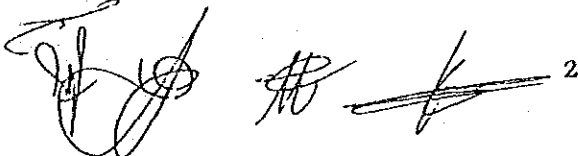
Podemos decir que se ha avanzado hasta cumplir algo más de la mitad de los objetivos previstos en el convenio. De ahora en más, lo más importante es realizar la transferencia de tecnología dentro del lapso del convenio y desarrollar el Centro como núcleo del organismo de capacitación dentro de FA. Por lo tanto, intercambiamos opiniones directas mutuas en esta reunión, para hallar soluciones a algunos problemas y para poder continuar avanzando en el proyecto."

A continuación se pasó al temario de la reunión, iniciando el Ing. DENDARYS la explicación del "Informe del Grupo de Trabajo Argentino-Japonés", que se adjunta a esta minuta.

El Jefe del Grupo de Expertos Japoneses, Ing. UENO, dió las explicaciones complementarias para proceder a la discusión de los temas.

El contenido de las principales discusiones fue el siguiente:

1. Respecto al ANEXO 2. DICTADO DE CURSOS DE 1988 y PROGRAMA TENTATIVO DE CURSOS PARA 1988 y 1989, y ANEXO 3. PROGRAMA DE ACTIVIDADES PARA EL AÑO 1988-1989, del INFORME DEL GRUPO DE TRABAJO ARGENTINO-JAPONES, se intercambiaron opiniones y fueron aprobadas.



2. Con respecto al punto IV. Problemas presentados, se acordó lo siguiente:

1)- Organización del Centro.

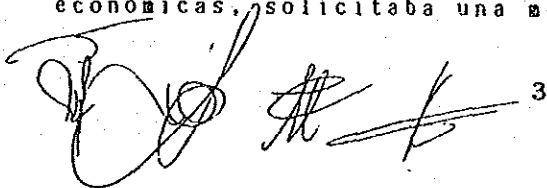
El Ing. Zanelli expresó que se estaba finalizando la resolución correctiva de los niveles. El cargo de Director del Centro tendrá categoría de Jefe Departamento Ira, el de Subdirector, Jefe de División Ira., y los Encargados de Gabinete, Jefe de Sección Ira.. Respecto a los intérpretes, quedarán fuera del organigrama.

Por parte japonesa, se sugirió que la Resolución corregida, fuera incluida anexa a la presente acta, a lo que FA accedió.

2)- Contraparte Argentina.

FA explicó la situación actual respecto a los candidatos que se han presentado en la búsqueda que se está realizando en todas las líneas electrificadas de la Empresa. Los postulantes serán entrevistados en el GENACAF a la brevedad para su selección.

La parte japonesa destacó lo siguiente: Considerando que algunos candidatos ya seleccionados habían desistido por no encontrar atractivo económico en la vacante y viendo que el personal de contraparte motivado por la posibilidad de adquirir nuevos conocimientos y elevar el nivel tecnológico de FA permanece en el GENACAF, a pesar de ofrecer el trabajo en la línea ciertas ventajas económicas, solicitaba una mejor situación económica para el

Handwritten signatures and a number 3.

personal del CENACAF, para asegurar así su permanencia en el futuro.

FA respondió que se estudiara la petición.

3.1)- Curso para Conductor de Coches Eléctricos.

La parte japonesa manifestó su deseo de conocer las causas por las que no ha podido realizarse hasta el presente los cursos de conductores.

Después de una exposición de las mismas por parte de los funcionarios involucrados, el Ing. Zanelli pidió que las Gerencias de Línea Roca, Recursos Humanos y el CENACAF tomaran a su cargo el tema e informaran en un plazo de 15 días.

El Ing. Barletta Blumetti planteó la posibilidad de dictar cursos complementarios para conductores, independientemente de los que dicta la Fraternidad, aprovechando así el superior nivel tecnológico con que podrían impartirse en el CENACAF.

3.2)- Curso para el Operador de PCZ.

La parte japonesa expresó su deseo de que este asunto fuera estudiado concretamente por la Línea Roca, haciendo una previsión de ingreso de personal, un cronograma de realización de cursos previos, que permitan acceder al curso del CENACAF y un programa de posibles participantes a este curso. FA accedió al pedido comprometiendo el cronograma completo y los reemplazos en un plazo de 15 días.

4)- Capacitación para el personal de centros de reparación.

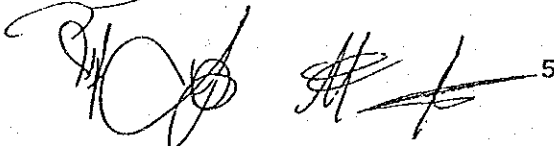
Por parte de FA se reiteró la voluntad de ampliar el espectro de capacitación solicitando la cooperación técnica necesaria para preparar cursos adicionales sobre mantenimiento en taller. En ese sentido se ofreció realizar todas las solicitudes correspondientes para lograr la ampliación de permanencia de los expertos.

La parte japonesa respondió que la presente Misión no podía tomar determinaciones sobre lo que no estuviera detallado en el Convenio. No obstante, aseguró que dentro del periodo de vigencia del mismo se va a realizar la cooperación necesaria para la transferencia de tecnología, con la colaboración de los expertos que actualmente se encuentran trabajando en el CENACAF. Finalmente expresó su deseo de ir conversando de ahora en más sobre esta ampliación según las necesidades que surjan destacando que en la posibilidad de brindar la cooperación solicitada, influirá en gran manera la iniciativa y decisión de FA respecto a como se va a realizar el mejoramiento de las instalaciones del Taller.

5)- Mejoramiento de las instalaciones del Centro.

Por parte de FA se aseguró la pronta realización de lo solicitado.

Respecto al último párrafo, FA respondió que el Centro debe plantear su presupuesto anual y elevarlo para su aprobación como el

Handwritten signatures and a number 5. The first signature is a large, stylized cursive signature. The second is a smaller, more compact signature. To the right of the second signature is the number '5'.

resto de los organismos de la Empresa.


6)- Futuro del CENACAF.

La parte japonesa solicitó la aprobación del programa expuesto y el apoyo necesario para esa ampliación, que se irá adecuando a las necesidades de FA según convenga.

FA dio su acuerdo.

3. El Equipo explicó la dificultad actual en el plan de envío de Expertos Japoneses en el area de Ingenieria Ferroviaria, debido a la reorganización de JNR en Abril de 1987. Aunque FA reconoció su comprensión de la dificultad, requirio que JICA envíe los Expertos Japoneses del Proyecto como se describe en la Minuta de Discusiones del Proyecto.

El Equipo se comprometio a informar a las autoridades japonesas concernientes, del requerimiento de FA y hacer todos los esfuerzos para proveer los Expertos Japoneses como se define en la Minuta de Discusiones.



6



LISTA DE PARTICIPANTES EN EL COMITE CONJUNTO

1.- PRESIDENTE.

Ingeniero Hector Hugo ZANELLI.

Vicepresidente Ejecutivo de Ferrocarriles Argentinos.

2.- MIEMBROS.

PARTE ARGENTINA.

Ingeniero Angel BARLETTA BLUMETTI.

Gerente Adscripto a la Vicepresidencia.

Agrimensor Jorge GELPI.

Gerente Linea Roca.

Señor Ricardo CRISPINO.

Gerente de Recursos Humanos.

Ingeniero Eugenio GILES.

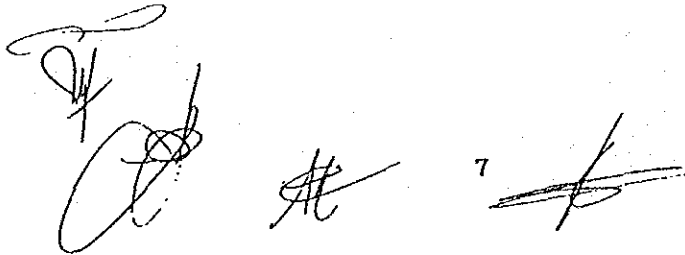
Gerente A/C Departamento Electrificación.

Ingeniero Carlos DENDARYS.

Director del Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria.

Ingeniero Carlos DUCA.

Subdirector del Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria.



Ingeniero Jorge LOZANO.
Jefe Departamento Electrico - Linea Roca.

Ingeniero Jose JORBA.
2do. Jefe Departamento Electrico - Linea Roca.

Ingeniero Miguel OLMEDA.
2do. Jefe Departamento Via y Obras - Linea Roca.

Senor Victorio BARBERIO.
Jefe Distrito Via y Obras Plaza Constitución - Linea Roca.


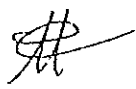

Parte Japonesa.
Ingeniero Katsuyoshi UENO.
Asesor Principal.

Ingeniero Eiji TOYODA.
Jefe de la Misión Japonesa.

Doctor Hajime ISHIZU.
Miembro de la Misión.

Ingeniero Kunio ITO.
Miembro de la Misión.

Ingeniero Senya MORI.
Miembro de la Misión.

  8 

Licenciado Seigo MATSUMOTO.
Coordinador.

Ingeniero Masashi KAMIMURA.
Director
JICA Oficina en la Argentina.

Licenciado Masashi AOKI.
Jefe de División Cooperación Técnica
JICA Oficina en la Argentina.

Ingeniero Koichi KURATA.
Experto del Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria.


3.- OBSERVADORES.

Parte Argentina.

Agrimensor Luis Benito RESIO.
Jefe de Departamento
Subsecretaría de Planificación de Transporte
Ministerio de Obras y Servicios Públicos.

Parte Japonesa.

Licenciado Takeshi MOCHIZUKI.
Secretario
Embajada del Japón.



アルゼンティン国鉄中央研修センタープロジェクト

第3回合同委員会 議事録

1985年11月28日ブエノス・アイレスにて署名されたR/Dに基づき、アルゼンティン国鉄において、主として新しく電化されたロカ線の運転保守に従事する中堅技術者の技能、知識の向上を図る訓練を行ない、ア国の輸送機関の発展に寄与する目的で国鉄中央研修センタープロジェクト（以下「プロジェクト」という）が開始された。

国際協力事業団が組織し、豊田栄次氏を団長とする日本側巡回指導調査団（以下「調査団」という）がア国滞在中、1985年11月28日のR/D第Ⅶ章第7項に基づき、1988年7月26日ブエノス・アイレスのアルゼンティン国鉄本社において第3回合同委員会が開催された。

双方は、日・ア作業グループの報告書に基づき、1987年12月2日から現在までのプロジェクト実施状況及び1988・1989年度の計画等について意見を交換し、かつ討議の結果として、別紙資料を作成し確認した。

ブエノス・アイレス 1988年8月10日

署 名

署 名

Ing. Katsuyosi UENO

Ing. Hector ZANELLI

国鉄中央研修センタープロジェクト
チーフ・アドバイザー

アルゼンティン国鉄副総裁

別紙

討 議 内 容

会議の冒頭、合同委員会の議長であるアルゼンティン国鉄副総裁Ing. ZANELLI は以下のような挨拶を行なった。

・FAにとって大変重要なプロジェクトにおいて、皆さんと一緒に仕事ができることを喜んでいる。その意味で、当プロジェクトが持っている全ての問題を解決するため、関係者全員をここに招集した。出席者全員はこの先進的なセンターにおいてFA内の教育を行ない、FA各部門の模範となるよう、定められた全目的を遂行する役割を持っている。

第一段階であるセンターの場所及び最初の一連のコースの展開が終り、現在はセンターの活動を更に確固たるものにする作業が残っている。センターが提供する研修を拡大し、更に計画にのっているものだけでなく色々と活動を広げていかねばならない。

日本側には、追加される色々な活動計画を策定するに当たって必要な助言をお願いしたい。

要約すると、現在進行中の活動を更に確固たるものにするためにここで議論を行なって、合意点を見い出していきたい。

これに対し、巡回指導調査団の豊田団長は以下の挨拶を行なった。

・今回は第3回の合同委員会である。副総裁が述べたように第1回はセンターの場所の決定が主な目的で、第2回目にはセンターの開所式が行なわれた。

当初、センター設置位置の変更については心配もあったが、副総裁はじめ本社、ロカ局の支援と専門家及びカウンターパートの努力により、現在ではセンターの運営も概ね順調に進められており、満足している。

R/Dの全体計画からみると、ほぼ中間を過ぎることとなる。

今後の課題としては、R/D期間内に有効かつ確実に技術移転が行なわれることであり、将来にわたってセンターがFAの研修機関の核となって発展してゆくことが重要であると考えている。

このため、プロジェクトを進めるに当たって、なお解決すべきいくつかの点について本委員会で卒直な意見交換を行ない、問題点をのりこえて前進することを期待している。

次に議事に入り、Ing. DENDARYSより「日・ア作業グループ報告書」に基づき全体説明、上野チームリーダーより補足説明を行った。

その主な討議結果は以下の通りである。

1. 日・ア作業グループ報告書「Ⅱ. 業務実施実績」、「Ⅲ. 1988・1989年度の実施計画」については、意見を交換し承認された。

2. 同報告書「Ⅳ. 問題点」について次の通り合意した。

1) センターの組織

・副総裁は次のように述べた。

現在ランクづけの決裁がなされているところである。

センター所長は部長 (Departamento) 1級、副所長は課長 (Division) 1級、実習室主任は係長 (Seccion) 1級とする。通訳に関しては組織図には入れないこととする。

・日本側は決裁された組織を本議事録に添付するよう要望した。

2) カウンターパートの充足

・FA側は現在ア国鉄の各電化線区で実施しているC/P候補者の応募状況について説明した。また、C/Pを出来るだけ早く人選するため、センターにおいて面接を行う必要があると述べた。

・日本側は「既に選考された候補者がセンターは経済的に魅力がないとして辞退したこと。現在配置のC/Pは現場勤務ならばもっと恵まれた条件になるにも拘らず、新しい知識を得る可能性及びFAの技術水準を高めるために意欲的に取り組んでいること」について述べ、C/Pが将来もセンターに残ることを確実にするため、よりよい経済的条件を与えるよう要望した。

・FA側はその条件について検討するであろうと答えた。

3・1) 電車運転士コース

・日本側は電車運転士コースが実施されない理由について質問した。

会議のメンバー側から本件について説明がなされた後、副総裁は「ロカ局、人事局及びセンターにてこの問題についてまとめ15日以内に報告書を提出するよう」指示した。

・Ing. BARLETTA副総裁顧問より、組合が行うかもしれないコースとは別に、センターが持っている高度な技術を活用して独自に運転士の補足コースを設けたらどうかとの提案があった。

3・2) 列車指令員コース

- ・日本側は本コースに受講者が参加できるようにするため、ロカ局で養成要員の計画とコースの実施計画を具体的に検討するよう要請した。
- ・FA側はこれらの計画を策定し、15日以内に提出すると約束した。

4) 電車検修工場の職員教育

- ・FA側は「工場における検修に対する追加コースを開設するために必要とする技術協力を日本側に要請するとともに、車両の研修コースを拡大したい」との意志を強く表明した。
「これに伴い必要となる専門家の任期延長に関しては、あらゆる手続きをとって対応したい」と申し入れた。
- ・日本側は「調査団はR/Dに記載されていない事に関して判断をすることはできない」と回答した。「しかしながら、R/Dの協定期間中は専門家による技術移転を行い、必要な協力は行う」と述べた。また、「今後も、本件について必要に応じて話合っていく用意はある。この件の取扱いは工場設備の改善をどのように実現していくかというFA側の熱意も重要なポイントになるであろう」と表明した。

5) センター施設の整備

- ・FA側は要望されたことについて早急を実施すると約束した。
- ・また、FA側はセンターの予算に関して「センターは他の国鉄の機関と同じように、年間予算を策定し、その予算承認のための手続きをとることになる」と述べた。

6) センターの将来

- ・日本側は「報告書の記載内容について認識し、これらを実施するためにはFA幹部の支援を得る必要がある」旨要望した。
- ・FAは同意した。

3. 調査団は、1987年4月の日本国有鉄道の改革により、鉄道技術分野における専門家の派遣は困難な状況にある旨説明した。

FAはその困難さについて理解を示したが、R/Dにある通り専門家派遣を願いたいと要望した。

調査団は「FAの要望を日本の関係機関に伝え、R/Dにある専門家派遣ができるようあらゆる努力を行う」と述べた。

台同委員会出席者

1 委員長

F A 副総裁

Ing. Hector H. ZANELLI

2 委員

アルゼンティン側

F A 副総裁顧問

Ing. Angel BARLETTA BLUMETTI

〃 ロカ局長

Agr. Jorge A. GELPI

〃 人事局長

Sr. Ricardo J. CRISPINO

〃 電化局長

Ing. Eugenio GILES

〃 研修センター所長

Ing. Carlos D. DENDARYS

〃 〃 副所長

Ing. Carlos R. DUCA

〃 ロカ局電気部長

Ing. Jorge E. LOZANO

〃 〃 次長

Ing. Jose R. JORBA

〃 ロカ局軌道土木部次長

Ing. Miguel A. OLMEDA

〃 〃 コンストラクシオン駅管区軌道土木課長

Sr. Victorio BARBERIO

日本側

チーフアドバイザー

上野勝禧

巡回指導調査団団長

豊田栄次

〃 団員

石津 緒

〃 〃

伊藤邦夫

〃 〃

森 千也

コーディネーター

松本征吾

JICAアルゼンティン事務所長

上村昌司

〃 業務第二課長

青木正志

研修センター専門家

蔵田幸一

3 オブザーバー

アルゼンティン側

公共事業省運輸庁運輸企画局 部長

Agr. Luis B. RESINO

日本側

在ア日本大使館書記官

望月 毅

3 . CENACAF 組織規定

FERROCARRILES ARGENTINOS

BUENOS AIRES, 14 JUL 1988

VISTO la Resolución P. N° 832/87 del 2 de noviembre de 1987, que fija la nueva estructura Orgánica Básica Superior de la Empresa, y

CONSIDERANDO:

Que es necesario capacitar a los técnicos de nivel medio afectados a la operación y mantenimiento de las áreas electrificadas.

Que dicha actividad se está cumpliendo bajo el asesoramiento de expertos japoneses, merced al convenio celebrado por la Empresa con la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA).

Que como consecuencia de este convenio se creó el Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria, unidad a la que es necesario dotar de la estructura orgánico funcional correspondiente, con dependencia directa de la Gerencia General Técnica.

Que la Gerencia de Recursos Humanos ha tomado la intervención que le compete en cuanto a la categorización de los cargos.

Por ello, en uso de las atribuciones conferidas por el Decreto N° 2036/87, la Resolución DEP. N° 05/88, lo establecido en el Artículo 4°, inciso a) de la Ley N° 18360 y lo dictaminado por el Consejo de Administración en la reunión de fecha 24 de setiembre de 1981, Acta N° 26, Tema N° 3,

EL PRESIDENTE DE FERROCARRILES ARGENTINOS

R E S U E L V E :

ARTICULO 1°.- Apruébase el Esquema Orgánico Funcional del Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria, Organigrama, Misiones y Funciones, Anexo I, (hojas 1 a 3) y Organigrama de Puestos, Detalle de la dotación de personal y cargos y descripción de las principales tareas de cada cargo, Anexo II (hojas 1 a 8), que conjuntamente con el Anexo I forman parte de esta Resolución.

ARTICULO 2°.- Incorpórese a la Gerencia General Técnica, la unidad Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria que se aprueba en el Artículo 1° de la presente Resolución.

ARTICULO 3°.- La Gerencia de Planeamiento y Organización (Departamento Organización y Métodos) deberá tener en cuenta lo dispuesto por la presente a efectos de su incorporación al Régimen Orgánico Funcional (R.O.F.).

ARTICULO 4°.- La Gerencia Recursos Humanos deberá tener presente

161/88

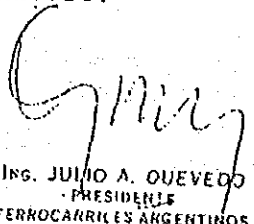
FERROCARRILES ARGENTINOS

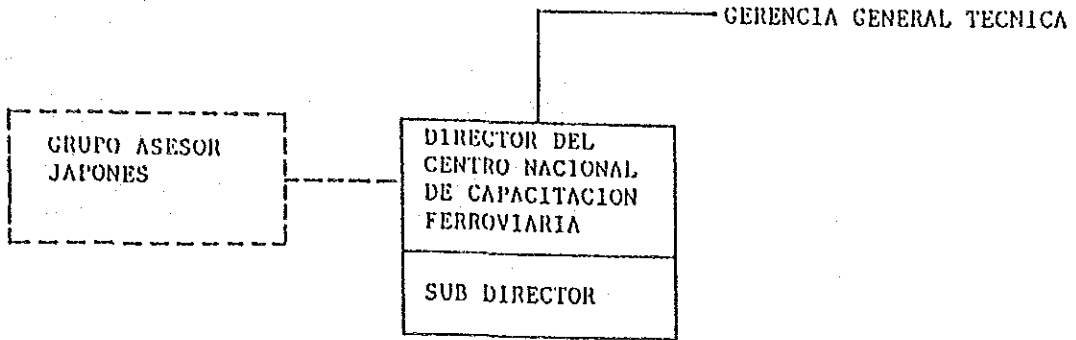
lo dispuesto por esta Resolución, a efectos de su implementación.

ARTICULO 5º.- Regístrese, comuníquese y archívese.

RESOLUCION P. Nº 181/88

F. A.


ING. JULIO A. QUEVEDO
PRESIDENTE
FERROCARRILES ARGENTINOS



181/88

MISION:

Dirigir el Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria, a fin de lograr la capacitación del personal obrero, de supervisión y técnico de las áreas electrificadas y promover la investigación de la electrificación ferroviaria.

RELACIONES ORGANICAS PERMANENTES

- 1) Está en relación de dependencia directa por línea de autoridad de la Gerencia General Técnica.
- 2) Para el cumplimiento de su misión, le dependen en forma directa:
 - a) Los Gabinetes de Capacitación
 - b) Apoyo administrativo

FUNCIONES ESPECIFICAS

- 1) Dirigir la elaboración y propuesta de los programas para la formación del personal de los servicios electrificados, atendiendo bajas vegetativas, reconversiones y modificaciones por introducción de innovaciones tecnológicas.
- 2) Formular propuestas para definir los planes de carrera y promoción del personal de los servicios electrificados.
- 3) Entender en la detección de necesidades y la ejecución de capacitación que brinde el centro.
- 4) Entender en la formación, actualización y perfeccionamiento de los Encargados de Gabinetes e Instructores.
- 5) Analizar y proponer las modificaciones y/o nuevos equipos para los gabinetes de prácticas.
- 6) Coordinar las relaciones entre la Empresa y la Agencia de Cooperación Internacional del Japón, conforme a las pautas establecidas en el Convenio FA-JICA.
- 7) Elaborar el Plan de Inversiones Patrimoniales y Presupuesto de Explotación de su campo funcional y elevarlo para su ajuste, consolidación y control.
- 8) Entender en la impresión de documentación propia de la capacitación, reproducción bibliográfica, videograbación y traducciones.
- 9) Dirigir el desarrollo de los servicios generales y el mantenimiento de edificios, instalaciones y equipos del CENACAF.
- 10) Entender en el aprovechamiento de los recursos humanos y materiales asignados al CENACAF, conforme a lo presupuestado en materia de gastos e inversiones.
- 11) Evaluar la acción de capacitación efectuada en el Centro e introducir las modificaciones que correspondan.
- 12) Efectuar la revisión de los manuales de capacitación y desarrollos didácticos para el dictado de cursos.

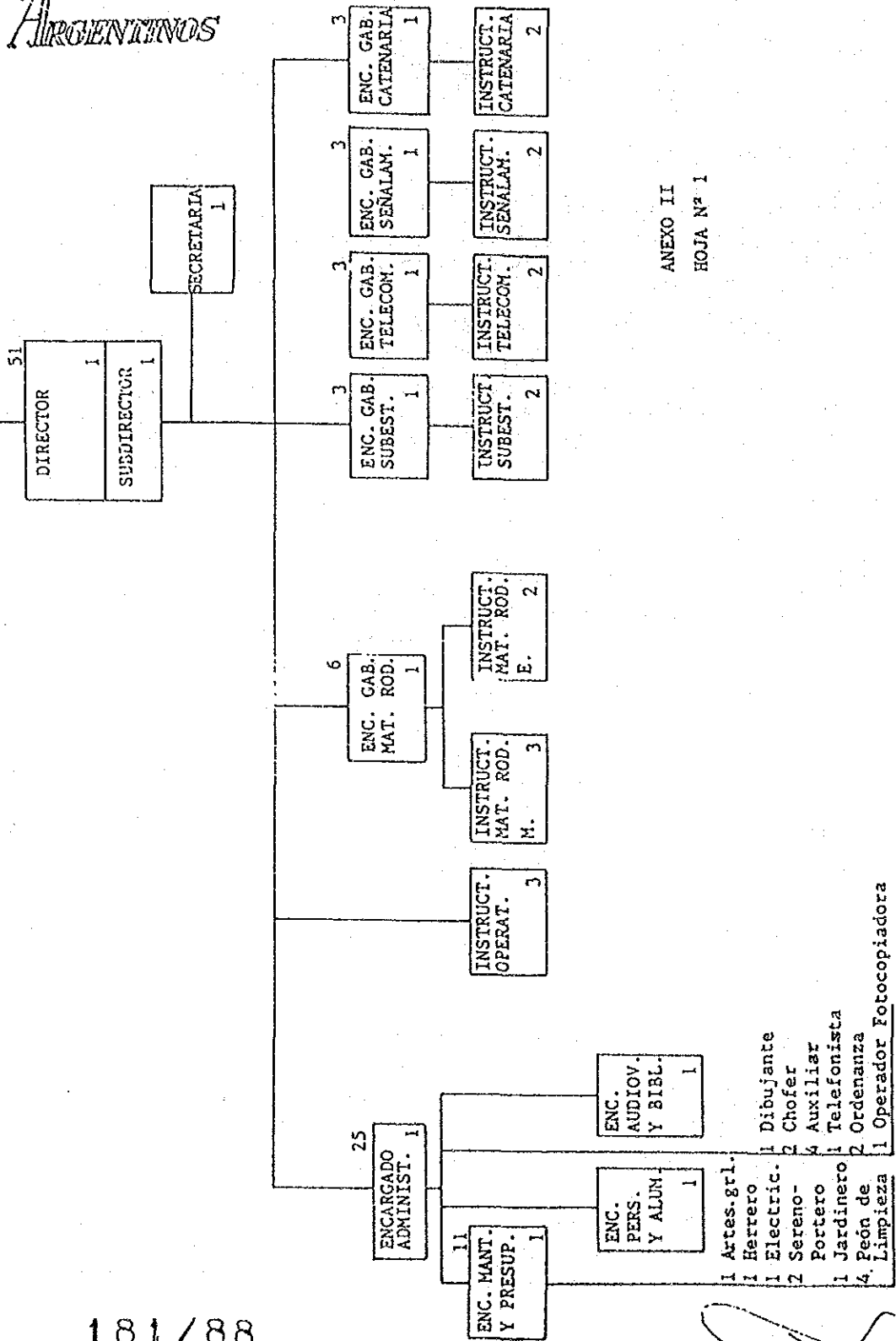
181/88

FUNCIONES COMPARTIDAS

- 1) Participar en el Comité Conjunto, según Convenio FA-JICA.
- 2) Participar en la redacción de nuevos contratos para electrificación y/o equipamientos, proponiendo la inclusión de cláusulas referidas a la capacitación.
- 3) Participar con los Jefes de Servicio de las áreas electrificadas en la determinación de las necesidades de capacitación.
- 4) Coordinar con el Gerente de Comunicaciones e Informática y el Jefe de Departamento Desarrollo Tecnológico, todo lo referente a los asuntos comunes de la administración del Centro Tecnológico de Ferrocarriles Argentinos.
- 5) Coordinar con la Gerencia de Recursos Humanos lo relativo a la formación de instructores, Programadores, elaboración de desarrollos didácticos y reintegros por crédito fiscal.
- 6) Coordinar con la Gerencia de Recursos Humanos la selección de los participantes a los cursos, afectados al Control de Asistencia, y otorgar los certificados de asistencia o aprobación.

102 / 6

GERENCIA GENERAL TECNICA



ANEXO II
HOJA Nº 1

181/88

DETALLE DE LA DOTACION DE PERSONAL Y CARGOS

<u>CANTIDAD</u>	<u>NIVEL</u>	<u>CODIGO</u>	<u>CARGO</u>
1	Departamento lra.	3100-001	Director del Centro Nacional de Capacitación Ferroviaria
1	División lra.	3100-002	Sub-Director
1	Oficina 4ta.	3100-005	Secretaría
1	Sección lra.	3100-001	Encdo. Gabinete Mat. Rodante
3	Oficina lra.	3110-002/4	Instructor Mat. Rodante (Parte Mecánica)
2	Oficina lra.	3110-005/6	Instructor Mat. Rodante (Parte Eléctrica)
1	Sección lra.	3120-001	Encdo. Gabinete Subestaciones
2	Oficina lra.	3120-002/3	Instructor Subestaciones
1	Sección lra.	3130-001	Encdo. Gabinete Telecomunicaciones
2	Oficina lra.	3130-002/3	Instructor Telecomunicaciones
1	Sección lra.	3140-001	Encdo. Gabinete Señalamiento
2	Oficina lra.	3140-002/3	Instructor Señalamiento
1	Sección lra.	3150-001	Encdo. Gabinete Catenaria
2	Oficina lra.	3150-002/3	Instructor Catenaria
3	Oficina lra.	3160-001/3	Instructor Operativa

181/88

DETALLE DE LA DOTACION DE PERSONAL Y CARGOS

<u>CANTIDAD</u>	<u>NIVEL</u>	<u>CODIGO</u>	<u>CARGO</u>
1	Sección 2da.	3170-001	Encargado Administrativo
1	Oficina 1ra.	3170-002	Encdo. Mantenimiento y Pre supuesto
1	Escala 113	3170-003	Electricista
1	Escala 113	3170-004	Artesano General
1	Escala 113	3170-005	Herrero
2	Escala 113	3170-006/7	Sereno Portero
1	Escala 112	3170-008	Jardinero
4	Escala 111	3170-009/12	Peón Limpieza
1	Oficina 3ra.	3170-013	Encdo. Personal y Alumnos
1	Oficina 3ra.	3170-014	Encdo. Audiovisuales y Biblio teca
1	Escala 119	3170-015	Dibujante
4	Escala 117	3170-016/19	Auxiliar
2	Escala 115	3170-020/21	Chofer
1	Escala 116	3170-022	Telefonista
2	Escala 113	3170-023/24	Ordenanza
1	Escala 114	3170-025	Operador Fotocopiadora

131/88

DESCRIPCION DE LAS PRINCIPALES TAREAS

<u>PUESTO DE TRABAJO</u>	<u>TAREAS</u>
Director CENACAF	Ver misión y funciones
Sub-Director	Ver misión y funciones
Secretaria	Efectúa la redacción y tipea correspondencia reservada de la unidad. Elabora informes y notas que por su carácter deben mantener su más estricta reserva. Informa a su Jefatura de las novedades diarias que hacen a sus obligaciones. Atiende y transmite mensajes y contacta al señor Director con otros funcionarios. Efectúa agenda de sus asuntos tales como; reuniones, entrevistas, compromisos, etc, y los correspondientes recordatorios. Efectúa el archivo de la documentación confidencial. Realiza el ordenamiento del escritorio del funcionario y la secretaria, no permitiendo reuniones de personal dentro de la misma. Efectúa la actualización de la guía de teléfonos de funcionarios, tanto de la Empresa como de otras reparticiones Nacionales, Provinciales, Municipales y/o Empresas Privadas, que por razones de sus funciones deben tomar contacto.

181/88

ANEXO II
HOJA N° 5
CENACAF
JEFATURA

PUESTO DE TRABAJO

TARRAS

Encargado Gabinete

Realiza las tareas técnico-pedagógicas de su especialidad y supervisa la acción de los instructores a su cargo. Coordina el uso de los equipos de cada gabinete, ya sea compartidos entre distintas áreas o entre instructores a cargo de distintos cursos de una misma área. Prepara los elementos necesarios para el desarrollo de las prácticas, haciéndose responsable del instrumental y herramientas de cada gabinete. Efectúa la provisión de materiales de consumo en las prácticas. Fiscaliza el mantenimiento de los equipos e instrumental de cada gabinete. Propone modificaciones y/o perfeccionamiento en el equipo a su cargo para mejorar la didáctica de la capacitación. Colabora en la instalación y montaje de nuevos equipos. Interviene como contraparte ante el experto japonés de su especialidad siendo el responsable de la adecuada coordinación y distribución del trabajo entre los instructores de su área. Supervisa el desarrollo de la acción de capacitación en su área, informando diariamente sobre la marcha de los cursos y problemas presentados. Dicta los cursos de capacitación en su especialidad, según lo requiera el cronograma anual de trabajo, en su carácter de Instructor de Formación Profesional, amparado por la Resolución P N° 4898/80. Participa en la programación de los cursos de acuerdo al sistema CONET, con el asesoramiento adecuado.

Instructor

Realiza el dictado de cursos y la elaboración de desarrollos didácticos en su especialidad, amparado por la Resolución P N° 4898/80. Efectúa las prácticas con el instrumental y el equipamiento adecuado, y con los elementos didácticos que sean necesarios. Colabora en la instalación y montaje de nuevos equipos. Interviene como contraparte ante el experto japonés de su especialidad. Participa en la programación de los cursos de acuerdo al sistema CONET, con el asesoramiento adecuado.

181/88

DESCRIPCIÓN DE LAS PRINCIPALES TAREAS

PUESTO DE TRABAJO

TAREAS

Encargado Administrativo

Efectúa las tareas administrativas que demanda el desenvolvimiento del Servicio en el orden de prioridad que se establezca. Atiende con carácter de primera instancia los trámites relativos a personal (control de asistencia, licencias, pagos de haberes, solicitud de pases, etc.) y canaliza el trámite correspondiente. Efectúa la recepción, registro, distribución y despacho de la correspondencia. Atiende el archivo administrativo y la actualización de los ficheros de antecedentes. Atiende el diligenciamiento de los trámites de todo tipo. Efectúa la redacción y atención de la firma de correspondencia. Coordina las tareas de tipo de las necesidades de útiles, papelería y demás elementos de aseo y la administración de los mismos. Coordina la toma de conocimiento por parte del personal de las comunicaciones, directivas, disposiciones y resoluciones en arreglo a la reglamentación vigente. Efectúa el requerimiento a los distintos sectores de la Empresa de la información útil al CENACAF y fiscaliza su entrega en los plazos establecidos. Vigila la aplicación del régimen disciplinario vigente y el cumplimiento de la ley de Contrato de Trabajo y toda otra reglamentación laboral de aplicación. Entiende en el manejo de la Caja Chica. Atiende el Censo de Bienes del CENACAF. Compila, mantiene y archiva la documentación rectora, actas del consejo de administración, documentación reservada, etc. Programa y controla el servicio de Microcomputación. Gestiona y fiscaliza la atención técnica y reparación del mismo. Programa y controla el servicio de automotores a disposición del CENACAF, coordinando su utilización con el conductor de automotores de Servicios Generales. Entiende en el funcionamiento de la central telefónica asignada al CENACAF. Entiende en la programación y realización de dibujos, fotocopiado, optimizando los recursos puestos a disposición del CENACAF.

181/88

ANEXO 11
HOJA N°7
CENACAF
ADMINISTRACION

PUESTO DE TRABAJO.

TAREAS

Encdo. Mantenimiento y
Presupuesto

Realiza el control del cumplimiento de las diversas tareas de mantenimiento dentro del CENACAF. Efectúa y controla el programa de mantenimiento liviano de edificios, instalaciones y artefactos eléctricos. Realiza en tiempo y forma los pedidos de compra de materiales para mantenimiento. Controla el estado de matafuegos y del resto de la instalación contra incendio, efectuando los pedidos de recarga o compra que fueran necesarios y dirige la cuadrilla de extinción de incendios. Efectúa y controla el programa de limpieza diario, semanal y mensual de edificios y predio. Efectúa el control diario de entrada y salida de elementos de limpieza, reallizando en tiempo y forma el pedido de compra de los mismos. Efectúa y controla el programa de trabajo semanal de jardinería. Controla el estado de herramientas y aparatos a cargo del personal de jardinería y limpieza, y efectúa las solicitudes de compra y mantenimiento que sean necesarios. Controla el libro de novedades de serenos-porteros. Realiza la confección de las Planillas de Presupuesto y las Planillas de Censo de Bienes de Uso.

Encdo. Personal y Alumnos

Realiza las tareas administrativas referidas al personal y alumnos del CENACAF. Ordena y mantiene al día los legajos personales de cada agente. Efectúa el parte mensual de asistencia de los participantes a los cursos. Ordena y mantiene el archivo de cursos, donde consta por cada curso: Ficha personal del participante, nómina de asistentes al curso, planillas de asistencia, evaluaciones teórico-prácticas, acta de finalización de curso y copias de certificados emitidos. Realiza la confección de los Certificados de Capacitación, de acuerdo al Acta de Finalización de Curso y todas las comunicaciones subsiguientes al servicio y al Departamento Desarrollo de Personal. Mantiene al día el archivo de partes de salida del personal. Realiza las notificaciones al personal, según corresponda.

181/83

ANEXO II
HOJA N° 8
CENACAF
ADMINISTRACION

PUESTO DE TRABAJO

Encdo. Audiovisuales y
Biblioteca

TAREAS

Realiza las tareas administrativas referidas al material audiovisual y de biblioteca del CENACAF. Ordena los equipos audiovisuales en la bodega destinada a tal fin y mantiene al día el control de existencia. Controla el uso y devolución del material llevando adecuadamente el libro respectivo. Coordina el uso de equipos audiovisuales con los Instructores a cargo de los cursos, teniendo en cuenta el programa de desarrollo diario de éstos. Coordina el uso de la Sala de Proyecciones y Audiovisual. Controla la existencia de los elementos de consumo, haciendo las provisiones de compras que se requieran. Efectúa la asignación de elementos de consumo a cada área, según el plan de confección de material didáctico respectivo. Fiscaliza la reparación de los equipos audiovisuales. Ordena y mantiene al día el fichero de biblioteca, realizando la misma tarea con la ubicación física de los libros en cada estante. Mantiene al día el control de stock de manuales de capacitación, haciendo provisión de las necesidades de impresión en función de los cursos programados para cada año. Controla la entrega de los manuales a los participantes de los cursos. Efectúa y controla los préstamos del material de biblioteca, llevando al día el libro de préstamos del mismo.

181/88

Buenos Aires, 1988年7月14日

FAの新幹部基本組織を定めている、1987年11月2日付決裁P第832/87に鑑み、

電化区間の運転および保守にたずさわっている中堅技術者に対し教育を行う必要があること、

その活動はFAと国際協力事業団(JICA)により調印されたR/Dにより日本人専門家の助言の下で行われていること、

そのR/Dに基づき、国鉄中央研修センターが発足され、このセンターに技術総局の直属の機関として組織付けする必要があること、

人事局がその職務に基づき、職階付けを行ったことに鑑み、

政令第2036/87、DEP決裁第05/88、法令第18360第4条の第a)項の定め、および1981年9月24日付運営委員会会議議事録、第26、議題第3の定めにより、授与された職権のならわしに従って、

アルゼンティン国有鉄道総裁は、

第1条 付属書類I、国鉄中央研修センターの機能的構成計画、組織図、任務、および付属書類Iとともに本決裁を構成する付属書類II、組織機構図、人数、地位、各職務の主な業務の説明の詳細を承認すること、

第2条 本決裁の第1条で承認する国鉄中央研修センターの機関を、技術総局に編入すること、

第3条 企画・組織局(組織、方式化部)は本決裁を考慮して、機能構成制度(Régimen Orgánico Funcional)に編入すること、

第4条 人事局は本決裁に定められていることを考慮して遂行すること、

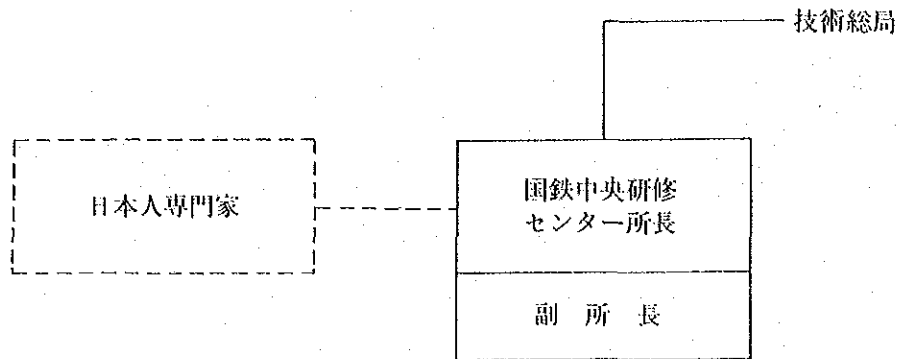
第5条 登録し、公布し、保管することを決裁する。

決裁第 181/88

署名

Ing. Lulio A. QUEVEDO

アルゼンティン国有鉄道総裁



国鉄中央研修センターの幹部

使命

電化区間の作業員監督および技術者の職員教育を行う目的、また鉄道電化研究を促進する目的で国鉄中央研修センターを指導する。

常時関連機関

- 1) 技術総局の直属機関とする。
- 2) 任務遂行のため
 - a) 教育実習室
 - b) 事務室 が直接付属する。

特殊（独特）使命

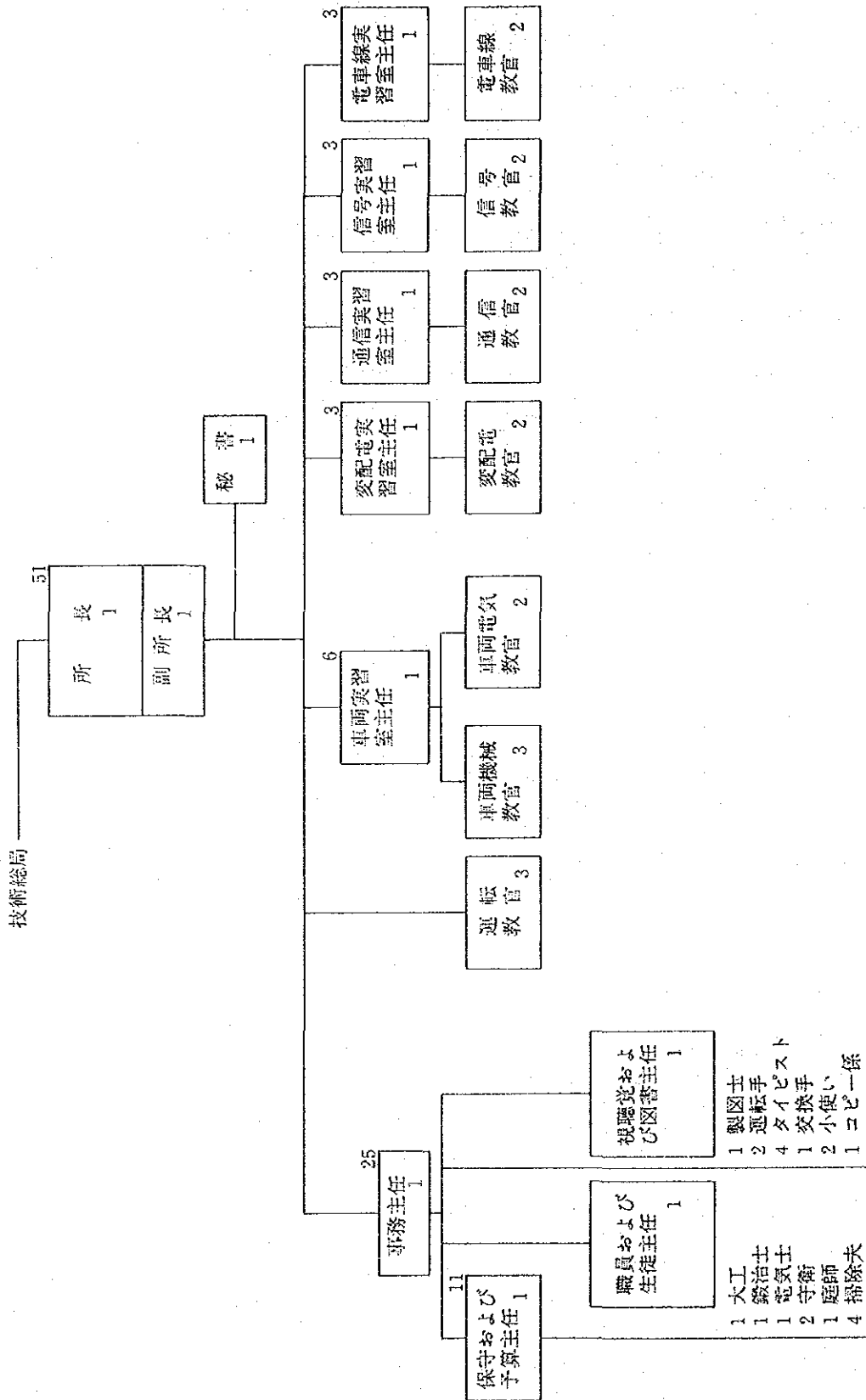
- 1) 定年退職による空席，転職，技術更新導入による変更に対し，電化区間の職員の育成のため，プログラムの作成および提案の指導。
- 2) 電化区間の職員の進む道（Carrera）および昇進計画を定めるための提案提出。
- 3) 必要性の感知およびセンターが与える教育の遂行の処理（Entender）。
- 4) 実習室主任および教官の時期に適した技術上昇の教育の処理。
- 5) 実習室の改良および新機器導入の検討および提案。
- 6) FA-JICA 協定に定められた条項に従い FA と JICA 間の関係の調整。
- 7) 資産投資計画および機能部門の運営予算を作成し，調整，確保および監査のために提出する。
- 8) 教育独自の書類の印刷，参考書目の複写，ビデオ撮影および翻訳の処理。
- 9) 庶務の展開および CENACAF の建物，設備，機器の保守の指導。
- 10) 出費および投資について予算化されてある事項に従い，CENACAF に充当された人員

および資材の有効的使用の処理。

- 11) センターで行われた教育活動の評価および必要な変更の導入。
- 12) 教科書およびコースの教育展開の監督。

協同使命

- 1) FA-JICA R/Dによる合同委員会への参加。
- 2) 電化および/または設備化の新契約案の作成に参加し、教育に関する条項導入を提案する。
- 3) 教育の必要性の決定を電化区間の現場の長とともに行う。
- 4) FA技術センターの運営に関して、通信、情報局長および技術開発部長と調整する。
- 5) 教官、プログラマー (Progromador) の育成、教育開発の作成および国庫金融償還について、人事局と調整する。
- 6) コース参加者の人選、出勤管理を、人事局と調整し、出勤または合格証明書を与える。



職員および職務の詳細

CENACAF 業務部門

人数	職	階	コード	職 名
1	部長職	1号	3100-001	国鉄中央研修センター所長
1	課長職	1号	3100-002	副所長
1	事務職	4号	3100-005	秘書
1	主任職	1号	3100-001	車両実習室主任
3	事務職	1号	3110-002/4	車両教官（機械）
2	事務職	1号	3110-005/6	車両教官（電気）
1	主任職	1号	3120-001	変配電実習室主任
2	事務職	1号	3120-002/3	変配電教官
1	主任職	1号	3130-001	通信実習室主任
2	事務職	1号	3130-002/3	通信教官
1	主任職	1号	3140-001	信号実習室主任
2	事務職	1号	3140-002/3	信号教官
1	主任職	1号	3150-001	電車線実習室主任
2	事務職	1号	3150-002/3	電車線教官
3	事務職	1号	3160-001/3	運転教官

職員および職務の詳細

CENACAF 事務部門

人数	職 務	コード	職 名
1	主任職 2 号	3170-001	事務主任
1	事務職 1 号	3170-002	保守および予算主任
1	号俸 1 1 3	3170-003	電気士
1	号俸 1 1 3	3170-004	大工
1	号俸 1 1 3	3170-005	鍛冶職
2	号俸 1 1 3	3170-006/7	守衛
1	号俸 1 1 3	3170-008	庭師
4	号俸 1 1 2	3170-009/12	掃除夫
1	事務職 3 号	3170-013	職員および生徒主任
1	事務職 3 号	3170-014	視聴覚および図書主任
1	号俸 1 1 9	3170-015	製図士
4	号俸 1 1 7	3170-016/19	タイピスト
2	号俸 1 1 5	3170-020/21	運転手
1	号俸 1 1 6	3170-022	交換手
2	号俸 1 1 3	3170-023/24	小使い
1	号俸 1 1 4	3170-025	コピー係

主な業務の説明

CENACAF 幹部

職 位	業 務
CENACAF 所長	使命参照
CENACAF 副所長	使命参照
秘 書	<p>機関の公文書の作成とタイプを行う。</p> <p>(秘密)に保たなければならない報告書および文書を作成する。自分の職務に関するその日の事柄を幹部に報告する。メッセージの受け付け、伝達をし、所長を他の幹部とコンタクトする。所長の会議、会見、約束等をスケジュール化し、通知する。秘密書類の保管を行う。幹部および秘書室の事務机を整頓し、職員の集まりをそこでやらせない。自分の職務として連絡しなければならないFA および国家、州、市、民間会社等の幹部の電話帳を常に新しくする。</p>

CENACAF 業務部門

職 名	業 務 内 容
実習室主任	<p>自身の専門の技術-教育業務を行い、担当している教官の業務を管理する。他分野または同分野の教官の間で共同して使う、各実習室の機器の使用を調整する。実習を行うため必要な物品を準備し、各実習室の計測器および工具の責任を取る。実習における消耗品の供給を行う。実習室の機器および計測器の保守を監査する。教育方法を良くするため担当している機器の改良を提案する。新機器の据え付けおよび設備に協力する。自分の専門の日本人専門家に対するカウンターパートとなり、同分野の教官間の適切な調整および作業分担の責任者となる。同分野の教育活動の展開を監督し、コースの進行および問題点について直接報告する。決裁 P 第 4898/80 に基づき、職人育成教官の資格で、年間作業計画の必要性に応じ、自分の専門のコースを受け持つ。適切な助言を受け、CONET 方式によるコースの計画作成に参加する。</p>
教 官	<p>コースを受け持ち、決裁 P 第 4898/80 に基づき、自分の専門の教育展開の作成を行う。計測器、適切な設備および必要な教材で実習を行う。新機器の設備および据え付けに協力する。自分の専門の日本</p>

職 名

業 務 内 容

人専門家のカウンターパートとなる。適切な助言を受け、CONET方式によるコースの計画作成に参加する。

CENACAF 管理部門

職 名

業 務 内 容

事務主任

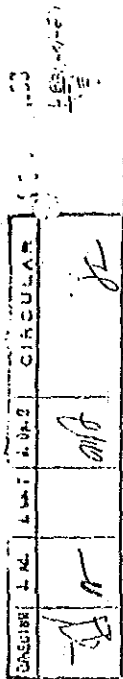
優先順位を定め、運営を行うために必要な管理業務を行う。人事に関する手続き（出勤、休暇、給与の管理、乗車パスの申請等）を優先して、関係機関に行く。配達物の受け取り、記録、配分および発送を行う。事務書類の保管、各職員の経歴、ファイルへの記入を担当する。全手続きの指揮を執る。文書の作成を行い、署名の処理をする。タイプ作業を調整する。必要な事務用品、用紙等を担当し、それらの管理を行う。職員に対する通知、指揮命令、現行規定の訂正を、全員に徹底する調整を行う。CENACAFに必要な情報をFAの各機関に要請し、定められた期限に納入されるよう監視する。職員の勤務態度、労働法の順守およびその他適用できる労働規定について助言する。小金庫(Cajachica)の運営を担当する。CENACAFの資産登録を担当する。幹部書類、運営委員会議事録、秘密書類等を収集、維持および保管する。マイクロバスの運営を計画し、管理する。マイクロバスの技術的問題および修理を手続きし、監査する。CENACAFに配置されている自動車を庶務の自動車係の運転士と、使用の調整を行いつつ、計画し、管理する。CENACAFに配置されている電話交換機を管理する。製図、コピーの作業計画および作業遂行を担当し、CENACAFに与えられた財源を有効に利用する。

保守および予算主任

CENACAF内の各種保守作業の遂行の管理を行う。建物、設備および電気器具のかるい保守のプログラムを行い管理する。保守用資材の購入要求を時期に適して行う。消火器およびその他の消火設備の状態を管理し、必要な購入または消火器の再詰め込み要求を行い、消火グループを指揮する。建物および周囲の日・週・月間清掃計画を行い、管理する。清掃道具の日常の出入りの管理を行い、購入要求を時期に適して行う。庭園士の週間計画を行い管理する。庭園士および清掃夫に貸与している道具、機器の状態を管理し、必要な物品の購入要求および保守を行う。守衛、門番の業務日記を管理する。

職 名	業 務 内 容
職員および生徒主任	<p>予算表および使用資材登録表を作成する。</p> <p>CENACAFの職員および生徒に関する事務業務を行う。各職員および生徒の個別ファイルを整理し、日毎に記入すべき事項の書き込みを行う。コース参加者の月間出勤簿の作成を行う。参加者個別カード、コース参加者リスト、出勤簿、机上-実習評価、コース終了証明書および発行証明書のコピーより成り立つ各コースの書類を整理し、保管する。コース終了証明書に基づき、教育内容証明書の作成を行い、職員開発部および職場よりの全通知を行う。外出届けカードを管理する。必要に応じ職員に通告を行う。</p>
視聴覚および図書主任	<p>CENACAFの視聴覚資材および図書室に関する事務業務を行う。</p> <p>視聴覚機器室を整理し、在品管理を行う。資材の使用および返還を帳簿に記入し管理する。コースの日毎の計画を考慮し、コースの教官達とともに視聴覚機器の使用を調整する。映写室および視聴覚機器室使用の調整を行う。消耗品の在庫を管理して、必要な購入の供給を行う。各分野の教材作成計画により、消耗品の供給を行う。視聴覚機器の修理を監査する。図書室の帳簿および図書を整理する。毎年のコース計画に基づき、印刷の必要性に応じ、マニュアルの冊数および在庫管理を行う。コース参加者へのマニュアルの配布を管理する。図書の貸し付けを帳簿に記入し管理する。</p>

4. アルゼンティン国鉄の概況



アルゼンティン国鉄の概況

1988.6

アエ政府の鉄道は1857年にブエノス・アイレス市から州西部方面に敷設された10kmの区間に敷設された。その後、農産物を産地からブエノス・アイレス港を通り輸出することを目的として首都と地方主要都市間の幹線が次々と建設され、首都を中心として放射状に伸びる支線網が形成された。
これらの鉄道の本拠は当初英領領土にあって建設されたが、第1次ベロン政権時の1945年から1947年にかけてすべて国有化された。
営業キロは1960年代には42,500kmであったが、モータリゼーションの進展等の影響により鉄道の利用が激減したため縮減が行われ、1985年現在、約34,000kmである。このうち電化区間は164kmである。
ブエノス・アイレス、ロカ線、ミトレ線、サン・マルチン線、サルミニオン線は1,576km、クルキヤ線は1,435km、ベルグラノー線は1,000kmとなっている。
この他アエ国鉄には示されていないが、ロカ線南端Ing. S. Jacobucci ~ Esquel間403kmにゲージ750mmの路線を有しており、SLSによる運転が行われている。

1985年11月、日本国との契約によるロカ線の電化が実施された。この電化により利用者は電化前の5倍以上増加しており、設備投資による事故ならぬ順調に運転されている。
現在アエ国鉄では、ロカ線Temperley ~ Bosques 間17kmの電化工事がスベインとの契約で行われる予定であり、サン・マルチン線 Retiro ~ Pilar ~ Mercedes間 110.7kmの電化のエンジンニアリング業務がソ連との間で進められている。

なお、アエ国鉄以外の鉄道としては、1913年開設のブエノス・アイレス市公営の地下鉄5路線35.6km、石炭輸送のための専用鉄道等がある。

アエ国鉄の社会奉

- 1853.9 アルゼンティンの民間資本によりブエノス・アイレス西部鉄道会社設立
- 1857.8 アルゼンティン最初の鉄道がParque (現在のTeatro Colónの隣) ~ Flores間10kmに開通
- 1863.1 ブエノス・アイレス西部鉄道会社州政府へ移管 (その後、1890.5 州政府はイギリス資本へ売却)
これより前後して、アルゼンティンの各地で、民間、州政府、イギリス資本、フランス資本が入り乱れ、数多くの鉄道会社が発立され、鉄道が次々と建設された。主な鉄道会社は次の通り。
1862. ブエノス・アイレス西部大鉄道会社設立 (イギリス資本)

- 1863. アルゼンティン中央鉄道会社設立 (イギリス資本)
 - 1866. エントロオス中央鉄道会社設立 (民営)
 - 1877. 北部中央鉄道会社設立 (国営)
 - 1882. ブエノス・アイレス・太平洋鉄道会社設立 (イギリス資本)
 - 1946.12 フランス系資本の鉄道会社を買収し国有化
 - 1947.2 イギリス系資本の鉄道会社を買収し国有化
国有化により、経営は軌道の増と増進により6つに分かれた。
・ベルグラノー/国有鉄道 (北部中央鉄道会社他1社より構成、1954年には3社の州営鉄道を統合)
 - ・クルキヤ/国有鉄道 (エントロオス中央鉄道会社他3社より構成)
 - ・サルミニオン/国有鉄道 (ブエノス・アイレス西部鉄道会社より構成)
 - ・ロカ/国有鉄道 (ブエノス・アイレス西部大鉄道会社より構成、1959年には国有のバタゴニア鉄道2線区を統合)
 - ・ミトレ/国有鉄道 (アルゼンティン中央鉄道会社他1社より構成)
 - ・サンマルチン/国有鉄道 (パナマ/パナマ、太平洋鉄道会社より構成)
- 1956.8 法令15778により、各路線の経営を統合するため、アルゼンティン国有鉄道会社 (EFEA) を設立
1965. 現社名 Ferrocarriles Argentinos (FA) に変更

客貨キロ、輸送量、職員数の推移

年	営業キロ (Km)	貨物輸送 (百万トン)	旅客輸送 (百万人)	職員数 (人)
1857	10	0.002	0.06	
1867	5,688	3.8	8.2	
1807	22,126	27.8	41.8	
1917	34,056	31.6	57.7	
1937		52.3	138.5	124,559
1945	42,840	57.9	282.1	145,876
1949	42,838	36.2	470.2	124,413
1955	43,930	33.5	578.8	209,854
1960	43,905	25.4	579.9	210,551
1970	39,505	22.7	439.8	145,460
1975	33,787	18.8	445.8	153,288
1980	34,192	17.3	381.7	85,925
1986	34,140	15.9	558.8	59,687

アルゼンティン国鉄の主要諸元

1. 営業キロ

1) 営業キロ (単位 Km)

	ロカ	ミトレ	カン・ワカン	ウルクサ	ワルクサ	計
1985	6,697	5,481	4,581	3,754	2,805	34,159
1986	6,697	5,481	4,563	3,753	2,805	34,140

2) 複線以上区間営業キロ (再掲) (単位 Km)

	ロカ	ミトレ	カン・ワカン	ウルクサ	計
1986	424	522	382	212	1,578

3) 電化区間営業キロ (再掲)

線別	電化区間	電化営業キロ (Km)	電化方式 (V)	記号
ロカ線	P.CONSTITUCION~EZEIZA TEMPERLEY~GLEW	4.4	交流 25,000	1985.11.9 開業 架空電車線方式
ミトレ線	RETIRO ~ J.SUAREZ " ~ B.NITRE " ~ TIGRE	5.7	直流 800	第3軌条方式
カン・ワカン線	ONCE~ROBENO	3.7	直流 800	第3軌条方式
ウルクサ線	F.LACROZE ~ G.LEXOS	2.6	直流 600	第3軌条方式
計		16.4		

4) 自動信号化区間営業キロ (再掲) (単位 Km)

	ロカ	ミトレ	カン・ワカン	ウルクサ	計
1986	50	135	130	28	483

5) 取敢 (1986年度) : 駅 1831 信号所 182

(参考) JNRR及びJ.R

1. 営業キロ

1) 営業キロ (単位 Km)

	北海道	東日本	東福	西日本	四国	九州	貨物	計
1985								20,799
1986								19,639
1987	3,156	7,900	2,003	5,275	881	2,406	(9,997)	21,321

(注) 1. 1985、1986年度はJNRRの旅客貨物の全営業キロを示し、新幹線の営業キロは加算されていない。

2. 1987年度の合計の営業キロは旅客会社のみであり、会社が引き継いだ地方交通線分を含む。(1987.10.1現在)

また、新幹線の営業キロ2034Kmを加算している。(東北・上越 83 Km、東海道 553Km、山陽 646Km)

2) 複線以上区間営業キロ (再掲)

1985年度	5,775 Km	(新幹線は加算していない)
1986 "	5,794 "	

3) 電化営業キロ (再掲)

1985年度	9,109 Km	(新幹線交流25,000V電化は加算していない)
1986 "	9,367 "	

この内、交流20,000V電化区間は3,545 Km

4) 自動信号化区間営業キロ (再掲)

1985年度	14,264 Km	(新幹線は加算していない)
1986 "	16,213 "	

5) 取敢 (1986年度) : 旅客・貨物 304 旅客 4,591
貨物 64 信号所 21
合計 4,980

2. 職員数

(単位 人)

	ロカ	ミトレ	ウ・ママン	カズント	カトフ	カクアノ	本社	計
1985	19,945	18,588	14,056	10,278	7,801	25,550	5,273	102,941
1986	19,377	18,279	13,628	9,766	7,825	25,849	5,173	99,897

3. 輸送量

1) 旅客輸送人員 (単位 百万人)

	ロカ	ミトレ	ウ・ママン	カズント	ウルキヤ	カクアノ	計
1985	36	59	41	96	27	41	300
1986	90	80	43	99	26	41	359

2) 旅客輸送人キロ (単位 百万人キロ)

	ロカ	ミトレ	ウ・ママン	カズント	ウルキヤ	カクアノ	計
1985	2,163	2,740	1,530	2,155	838	1,216	10,744
1986	3,322	2,802	1,734	2,315	1,032	1,234	12,459

3) 貨物輸送トン数 (単位 百万トン)

	ロカ	ミトレ	ウ・ママン	カズント	ウルキヤ	カクアノ	計
1985	3.1	3.5	4.3	2.1	0.7	4.4	18.1
1986	2.8	3.2	3.7	1.0	1.1	4.1	15.9

4) 貨物輸送トンキロ

	ロカ	ミトレ	ウ・ママン	カズント	ウルキヤ	カクアノ	計
1985	1,210	1,457	2,795	825	380	3,202	9,810
1986	1,259	1,350	2,544	447	547	2,919	9,066

2. 職員数

(単位 人)

	北海道	東日本	東海	西日本	四国	九州	貨物	計
1985								276,774
1986								223,547
1987	12,982	83,039	21,428	51,486	4,448	14,978	12,017	200,390

(注)・1987年度は10.1現在の人数である。

この他、新幹線鉄道保有機構 60人、鉄道協会 570人、鉄道情報システム会社 280人、鉄道総合技術研究所 550人、計1460人で総合計では201,850人となる。

また、余剰人員を除く国営清算事業団の職員は2500人である。

3. 輸送量

1) 旅客輸送人員 (単位 百万人)

	1985年度	1986 "	1985年度	1986 "
旅客輸送人キロ	6,941	7,104	197,463	198,299
	百万人	百万人	百万人キロ	百万人キロ

(1987年度の計画)

	北海道	東日本	東海	西日本	四国	九州	計
百万人キロ	3,700	99,500	38,400	45,500	1,500	7,100	195,700

3) 貨物輸送トン数

1985年度	68.6	百万トン
1986 "	61.6	"
1987年度の計画	56	"

4) 貨物輸送トンキロ

1985年度	21,625	百万トンキロ
1986 "	20,145	"